

館報

第 32 号



2026

静岡市立登呂博物館

目次

1	基本理念・沿革	
1-1	基本理念	2
1-2	沿革	3
2	概要	
2-1	登呂博物館	5
2-2	登呂遺跡	5
3	管理運営	
3-1	利用状況	6
3-2	利用者数詳細	6
3-3	入館者数推移	7
3-4	観覧者数推移（リニューアル後）	8
3-5	登呂遺跡（復元遺構）の活用	9
3-6	体験学習	9
3-7	組織	10
3-8	予算・決算	10
4	展示	
4-1	春季企画展「しずおかタイムトラベル 2025」	13
4-2	夏季企画展「いせきの ZOO」	15
4-3	秋季企画展「大昔へのまなざし」	18
4-4	冬季企画展「駿河国分寺展」	20
4-5	特別展・企画展開催実績（リニューアル後）	22
4-6	通常展示	24
4-7	資料貸出	24
5	保存	
5-1	修理事業	25
5-2	寄贈	26
6	活用（各種イベント含む）	
6-1	主催事業	27
6-2	共催・連携事業	31
6-3	その他事業	34
7	教育普及	
7-1	学校見学	35
7-2	講師派遣・出張講座	35
7-3	博物館実習・職場体験等	38
7-4	こども学芸員養成講座	39
7-5	教員のための博物館の日 in 登呂博物館	39
7-6	視察等受入	39
8	広報	
8-1	広報印刷物	40
8-2	ウェブサイト・SNS	41
8-3	報道・広告等	42
8-4	トロペー	44
9	博物館協議会	45
10	ボランティア活動	46
11	利用案内	48
12	報告「登呂博物館と学校教育～令和 6 年度から令和 7 年度の取組報告～」	49
	報告「登呂遺跡出土の魚骨について」	49

1 基本理念・沿革

1-1 基本理念

登呂博物館は、登呂遺跡と一体化した博物館として昭和 47 年に開館し、平成 22 年 10 月にリニューアルオープンしました。リニューアルに際し策定された「建替基本構想」（平成 18 年 3 月）では次のとおり基本理念が定められました。

基本理念

過去から未来に向かう歴史探訪へのいざない

基本方針

登呂遺跡は、特別史跡として貴重な国家的文化遺産であり、静岡市を代表する文化的シンボルであります。新たな博物館は、この登呂遺跡と一体化した遺跡博物館になることを目指し、登呂遺跡の保存と後世への継承、有意義で幅広い活用に努めます。

また、登呂遺跡の発掘調査によって明らかにされた稲作農耕文化とその発掘調査がもたらした意義を博物館活動の中心テーマに据え、博物館の内外でさまざまな活動を展開します。

そして、登呂遺跡が伝える歴史や文化あるいは地域について、豊かな実感を持って学ぶことができる場となり、人々の活気にあふれる集いと温もりのある交流を生み出していく役割を果たします。

役割と使命

- 1 登呂遺跡と一体化した遺跡博物館
- 2 稲作農耕文化に関する調査・研究の拠点
- 3 登呂遺跡の発掘調査がもたらした意義の継承
- 4 情報の収集と発信、ネットワーク化の推進
- 5 楽しく・豊かに・実感できる学びの創出
- 6 学校教育との連携・生涯学習への支援
- 7 「登呂学」の創造を通じた集いと交流の促進



登呂博物館ロゴマーク

また、博物館リニューアルに先立ち、登呂遺跡については、平成 7 年 3 月に有識者委員会によって「特別史跡登呂遺跡保存整備基本計画」が策定され、平成11年度から15年度にかけて再発掘調査が行われました。

そして、再発掘調査の結果を基にして「特別史跡登呂遺跡再整備基本設計」が平成17年 3 月に策定され、平成18年度から平成23年度にかけて再整備事業が行われました。

「基本設計」では再整備の目的・方針について、次のように定められています。

整備の目的

登呂遺跡は、今日までつづく日本の農耕文化の初期段階（弥生時代）の実態をしめし、弥生時代の社会の様子を学ぶことのできる貴重な遺跡である。そうした登呂遺跡の特徴を良好に保存しつつ、正しく理解し、継続的な遺跡空間の活用を図る。また、地域住民に親しまれ、活かされることで、地域の誇りとして長く受け継がれていく遺跡となるようにする。

1. 登呂遺跡を正しく理解するために、遺構の精密な検討をもとに復元的に整備を行う。

2. 史跡整備の先駆として、常に新たな体験と情報が発信できる機能を有した整備とする。
3. 地域の人々が遺跡の活用と運営に積極的に関わることができる機能と運営体制を整える。地域の人々の生活の一部としての機能を保持する。
4. 整備により整えられた機能を活かし、継続的に保存・活用して行くための運営体制の充実を図る。

整備方針

学術的な成果に基いて復原整備を行うと共に、より多く人々が関わりを持てる遺跡となるようにするため、活用を中心として運営が行えるように整備を行う。また、現在の登呂遺跡は都市公園としても位置付けられ、災害時の広域避難地にも利用されることから、都市公園としての機能も含んだ整備とする。

1. 盛土等により、遺構の保存を図った上で活用を行う。
2. 住居域と水田域を一体として感じられる空間として整備を行う。
3. 体験を重視した遺跡運営を継続的に行うことのできる整備とする。
4. 遺跡のエンタランス機能と体験・情報発信の中心として博物館を充実させるとともに、遺跡公園と博物館の一体化を図り整備を行う。
5. 遺跡公園としての復元的空間表現を重視した整備とするとともに、従来の都市公園的機能を取り入れる。(都市公園としての機能は遺跡外周部に集約する。)

1-2 沿革

昭和 18 年 (1943)	1 月	軍需工場建設の際、遺跡が発見される
	7 月 11 日	「登呂遺跡発見」の新聞報道 (毎日新聞静岡版)
	8~9 月	静岡県による第一次発掘調査
昭和 20 年 (1945)	6 月 20 日	静岡大空襲。調査記録・大型木製資料などが焼失
昭和 22 年 (1947)	7 月	「登呂遺跡」を正式名称に決定
	7~9 月	静岡市登呂遺跡調査会による第二次発掘調査開始 (7 月 13 日鋤入式)
	11 月	東京国立博物館にて『登呂遺跡出土品特別展』開催 (昭和 23 年にも)
昭和 23 年 (1948)	4 月	日本考古学協会発足。静岡市登呂遺跡調査会解散
昭和 23 年~25 年 (1948~50)		日本考古学協会による第三次~第五次発掘調査
昭和 24 年 (1949)	11 月	調査報告書『登呂』 (日本考古学協会編、毎日新聞社発行) 刊行
昭和 25 年 (1950)	4 月	奈良国立博物館にて
		『古代農耕文化展 -登呂遺跡・瓜郷遺跡・唐古遺跡から見た-』開催
昭和 26 年 (1951)	1 月	登呂遺跡休憩所 (案内所・名物協会売店併設) 竣工
	3 月	1 号復元住居を建設
昭和 27 年 (1952)	4 月	1 号高床倉庫を建設
	3 月 29 日	国史跡に指定 (11,600 m ²)
	11 月 22 日	国特別史跡に指定 (11,600 m ²)
昭和 29 年 (1954)	9 月	調査報告書『登呂-本編-』 (日本考古学協会編、毎日新聞社発行) 刊行
昭和 30 年 (1955)	4 月	静岡考古館 開館 (各研究機関からの出土品の返還を受けて)
昭和 34 年~42 年 (1959~67)		遺跡隣接地を購入し、都市公園として整備
昭和 35 年 (1960)		地元住民が「登呂会」を結成。第一回「登呂まつり」開催
昭和 40 年 (1965)	7~8 月	東名高速道路建設に伴う静岡県文化財保存協会による第六次発掘調査
昭和 41 年 (1966)		遺跡隣接地・水田部分 (48,300 m ²) が史跡に仮指定される

昭和 43 年～47 年 (1968～72)		住居跡・森林跡・水田跡の一部・東名高架下を整備
昭和 46 年 (1971)	10 月	静岡考古館 閉館
昭和 47 年 (1972)	4 月 1 日	静岡市立登呂博物館 開館
昭和 47 年～53 年 (1972～78)		水田跡を復元整備
昭和 49 年 (1974)	2 月 20 日	天皇・皇后両陛下ご来館
昭和 53 年 (1978)	12 月 21 日	仮指定地が特別史跡に追加指定 (48,300 m ²)
昭和 56 年 (1981)	6 月	公園内に「静岡市立芹沢銈介美術館」開館
昭和 59 年 (1984)		登呂遺跡発見 40 周年記念事業の開催 (シンポジウムほか)
昭和 63 年 (1988)	10 月	日本考古学協会設立 40 周年記念静岡大会 「日本における稲作農耕の起源と展開」開催
平成 4 年 (1992)	10 月	静岡県浙江省友好提携 10 周年記念シンポジウム 「イネのルーツ・シンポジウム～登呂のルーツは浙江省にあり」開催
	11 月	博物館開館 20 周年式典開催
平成 5 年 (1993)		登呂遺跡発見 50 周年記念事業の開催 (シンポジウムほか) 「市民水田」事業の開始
平成 6 年 (1994)	3 月	博物館 1 階リニューアル。1 階を参加体験ミュージアムとした
平成 7 年 (1995)		「博物館ボランティア」の導入
平成 11 年～15 年 (1999～2003)		登呂遺跡再発掘調査 (第 19 次～23 次調査)
平成 15 年 (2003)	11 月	登呂遺跡発見 60 周年記念シンポジウム 「弥生時代の登呂ムラと各地のムラ」開催
平成 16 年 (2004)	2 月 27 日	登呂遺跡出土品 699 点が静岡県指定文化財に指定
平成 18 年～23 年 (2006～2011)		登呂遺跡再整備
平成 19 年 (2007)	6 月 30 日	登呂博物館 閉館
平成 20 年 (2008)	9 月 13 日	第四回日本考古学協会公開講座 ～考古学から見えてきたふるさとの歴史～ 「はじまりは登呂遺跡 -弥生農村の実像を求めて-」開催
平成 21 年 (2009)		登呂遺跡・登呂博物館イメージキャラクター「トロペー」誕生
平成 22 年 (2010)	10 月 3 日	登呂博物館リニューアルオープン
平成 23 年 (2011)	9～10 月	リニューアル一周年記念特別展 「発掘された日本列島 2011」を開催 (全国巡回展の一会場として)
平成 28 年 (2016)	8 月 17 日	登呂遺跡出土品 775 点が重要文化財に指定
	11 月 19 日	重要文化財指定記念シンポジウム 「遺跡からみる 弥生集落のかたち」開催
平成 30 年 (2018)		重要文化財指定資料の修理事業開始
	4 月 24 日	音声ガイドの利用開始
	11 月 3 日	日本考古学協会設立 70 周年記念事業の一つとして 公開講演会「子どもたちと語る考古学と未来」開催
平成 31 年 (2019)	10 月 1 日	登呂博物館公式 Twitter「トロペーのひとりごと」運用開始
令和 2 年 (2020)	1 月	登呂博物館新公式ホームページ公開
	4～5 月	新型コロナウイルス感染拡大防止により休館
令和 6 年 (2024)	3 月	登呂遺跡発見 80 周年記念事業 国際シンポジウム ①「日韓における史跡の整備と活用の今後」 ②「農耕空間の多様性と弥生農耕の形成」開催

2 概要

2-1 登呂博物館

(1) 開館日 昭和 47 年 4 月 1 日
リニューアルオープン 平成 22 年 10 月 3 日

(2) 建物

ア 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階

イ 面積 建築面積 1,259.64 m²

延床面積 2,296.52 m²

部門	諸室	面積(m ²)
保管	一般収蔵庫	96.65
	特別収蔵庫	25.41
	前室	19.29
展示	体験展示室	286.26
	常設展示室	211.82
	特別・企画展示室	96.90
	展示準備室	10.98
調査研究	調査研究室、写場	53.51
教育普及	交流ホール（収蔵庫除く）	160.18
交流	図書コーナー、書庫など	180.55
搬入搬出	トラックヤード、荷解場	97.39
管理運営	ミュージアムショップ	26.64
	事務室	69.79

(3) 建設業者

建築設計 株式会社川口建築都市設計事務所
(現 合同会社デザイン・アープ)

展示設計 株式会社丹青社

建築工事 木内建設株式会社

電気工事 近和電業株式会社

衛生工事 大和工機株式会社

空調工事 内川工業株式会社

昇降機工事 株式会社日立製作所

展示工事 株式会社丹青社

展示情報工事 NEC ネットズエスアイ株式会社

2-2 登呂遺跡

(1) 遺跡の性格

特別史跡、都市公園（登呂公園）、一時避難地

(2) 面積

総面積 約 66,000 m²*

(うち特別史跡指定面積 59,900 m²)

※特別史跡に博物館・美術館・銚介の家を加えた面積

(3) 復元建物

ア 棟数 住 居 5 棟^{※1,2}

高床倉庫 3 棟^{※1}

祭 殿 1 棟

※1 各 1 棟は昭和年間に設計のもの

※2 1 棟は鉄骨造 GRC パネル貼り構造

イ 設計

昭和－関野克 平成－宮本長二郎（指導）

(4) 復元水田 面積 約 21,000 m²

(5) 再整備設計 株式会社文化財保存計画協会

(6) 管理状況

ア 遺跡、博物館等

静岡市観光交流文化局歴史文化課

イ 芹沢銚介美術館

静岡市観光交流文化局文化政策課

ウ 登呂公園（学びの広場、園路など）

静岡市都市局都市計画部緑地政策課、
公園建設管理課

エ 駐車場運営

公益財団法人するが企画観光局

営業時間 8:30 - 17:00

料 金 普通車 400 円、バス 1,500 円

オ ミュージアムショップ運営

ショップ・イイジマ

3 管理運営

3-1 利用状況

令和7年度博物館利用状況（）内は前年度の値

開館日数 302日（303日）

入館者数 157,447人（167,362人）

観覧者数 36,787人（36,724人）

団体見学 289団体※（273団体） ※減免処理した学校団体と一般団体の合計

3-2 利用者数詳細（単位：人）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有料観覧者数	一般	個人	945	1,471	997	980	1,925	982	1,220	1,375	633	886	1,085	1,552	14,051
		団体	0	0	0	0	0	124	230	156	0	0	0	0	510
		回数券	10	23	36	11	17	6	18	5	17	10	7	6	166
		助成券	10	7	12	6	16	11	11	11	1	9	12	8	114
		共通個人	438	639	221	367	656	431	493	548	114	322	410	244	4,883
		共通団体	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	36
		小計	1,403	2,140	1,266	1,364	2,614	1,554	1,972	2,131	765	1,227	1,514	1,810	19,760
	高校・大学生	個人	63	137	64	57	216	100	56	83	50	53	59	187	1,125
		団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		回数券	0	0	15	0	0	5	0	0	0	0	0	1	21
		助成券	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		共通個人	18	80	7	24	65	32	15	16	6	23	17	24	327
		共通団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	81	217	87	81	281	137	71	99	56	76	76	212	1,474
	小・中学生	個人	196	378	150	245	735	168	160	217	66	129	137	260	2,841
		団体	0	0	0	0	0	0	1	27	0	0	0	0	28
		回数券	0	1	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	16
		助成券	7	3	0	3	2	6	3	0	0	0	3	0	27
		共通個人	31	52	8	26	89	25	16	23	3	13	19	9	314
		共通団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	234	434	158	274	841	199	180	267	69	142	159	269	3,226
	合計	1,718	2,791	1,511	1,719	3,736	1,890	2,223	2,497	890	1,445	1,749	2,291	24,460	
無料観覧者数	一般	学校行事	10	126	198	71	0	22	37	30	23	3	21	6	547
		身障者	89	125	73	89	164	99	136	102	63	95	142	158	1,335
		老年者	42	47	18	13	44	21	43	63	18	69	79	124	581
		施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		視察等	2	3	0	0	0	0	65	0	22	7	2	0	101
		その他	1	11	2	0	1	7	9	9	1	6	7	5	59
		小計	144	312	291	173	209	149	290	204	127	180	251	293	2,623
	高校・大学生	学校行事	0	0	36	26	0	33	10	0	20	7	0	0	132
		身障者	0	6	4	2	1	0	0	0	5	0	1	5	24
		研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	27
		小計	0	6	40	28	1	33	37	0	25	7	1	5	183
	小・中学生	学校行事	164	1,786	3,231	1,270	0	353	492	360	230	0	306	36	8,228
		身障者	14	4	2	22	22	9	8	8	8	8	6	39	150
		市内	21	65	53	71	82	40	94	26	26	15	45	36	574
		幼児	50	80	19	27	114	42	43	40	16	35	42	46	554
		施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	4	15
		小計	249	1,935	3,305	1,390	218	444	637	434	280	58	410	161	9,521
		合計	393	2,253	3,636	1,591	428	626	964	638	432	245	662	459	12,327
総計	観覧者	2,111	5,044	5,147	3,310	4,164	2,516	3,187	3,135	1,322	1,690	2,411	2,750	36,787	
総入館者	9,767	19,279	15,323	12,173	17,170	11,044	22,476	13,735	6,137	7,978	10,331	12,034	157,447		

3-3 入館者数推移（単位：人）

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
22	-	-	-	-	-	-	27,255	18,323	10,780	14,372	16,636	14,948	102,314
23	25,094	29,751	20,176	15,028	26,905	12,557	18,758	14,290	8,486	10,523	13,019	13,026	207,613
24	24,132	27,420	14,333	13,025	23,665	13,366	15,592	13,267	7,260	10,126	13,426	14,254	189,866
25	19,688	26,403	14,434	11,286	22,603	11,489	18,326	14,561	7,424	10,418	10,285	16,210	183,127
26	22,361	28,563	13,940	11,398	25,578	12,311	18,483	13,945	4,973	8,887	10,614	12,976	184,029
27	23,132	27,869	12,493	11,638	21,821	16,666	17,429	12,150	6,821	9,691	10,397	16,329	186,436
28	24,112	29,217	12,727	12,787	21,039	10,708	16,663	13,591	7,601	9,545	10,795	16,106	184,891
29	19,882	23,605	14,930	11,352	23,020	10,145	15,195	11,274	6,562	9,129	10,139	12,358	167,591
30	20,688	24,713	13,215	10,411	21,188	12,139	16,417	11,125	7,599	8,611	9,582	12,108	167,796
31(1)	20,657	27,282	15,230	12,358	21,300	12,191	11,914	12,828	6,691	8,494	11,241	9,382	169,568
2	2,510	0	7,346	8,547	10,893	10,630	15,254	15,887	6,928	4,434	6,691	8,048	97,168
3	7,490	15,593	14,226	10,118	8,404	5,351	11,088	16,343	8,300	5,955	5,507	9,757	118,132
4	10,303	18,380	17,329	13,594	15,429	10,666	28,270	10,708	7,674	8,039	8,888	11,901	161,181
5	10,155	16,790	17,086	12,929	18,836	10,699	28,932	10,794	7,085	8,728	10,859	12,927	165,820
6	11,552	17,348	18,512	12,182	17,383	11,908	28,148	11,826	7,650	8,341	10,438	12,074	167,362
7	9,767	19,279	15,323	12,173	17,170	11,044	22,476	13,735	6,137	7,978	10,331	12,034	157,447
リニューアル後（H22～R7）													2,610,341
旧博物館（S47～H19）													6,954,504
合 計													9,565,109

3-4 観覧者数推移（リニューアル後）（単位：人）

月 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
22	-	-	-	-	-	-	9,306	6,407	3,000	4,163	5,161	4,216	32,253
23	9,128	10,711	6,290	4,514	7,763	4,169	7,023	5,101	2,178	3,105	3,066	3,360	66,408
24	8,049	9,541	4,368	3,442	8,222	3,873	3,841	3,782	1,942	2,484	3,240	3,362	56,146
25	6,705	9,172	3,746	2,772	6,268	2,699	3,780	3,359	1,515	2,169	1,736	3,112	47,033
26	7,116	9,031	3,640	2,284	6,096	2,686	3,367	2,802	815	1,873	2,036	2,210	43,956
27	7,287	7,045	3,283	2,725	4,863	3,506	2,875	2,418	929	1,713	2,144	3,708	42,496
28	7,656	7,957	3,795	3,263	4,894	2,603	3,288	2,613	1,555	2,307	2,552	3,329	45,812
29	6,600	6,136	4,125	3,035	5,734	1,881	3,104	2,347	1,003	2,462	2,676	2,688	41,791
30	6,385	6,557	3,399	2,121	4,725	2,285	3,064	1,770	1,246	1,796	1,817	2,260	37,425
31(1)	6,144	7,881	3,872	2,650	4,699	2,365	2,065	2,639	1,191	1,755	2,483	1,513	39,257
2	188	0	1,929	2,386	4,113	3,505	5,194	4,360	2,106	1,097	2,072	2,377	29,327
3	2,534	4,602	5,077	3,449	2,626	1,374	3,800	5,274	2,943	1,728	1,700	3,193	38,300
4	3,108	5,819	5,514	4,347	4,253	2,962	3,646	2,230	1,948	1,984	2,228	3,123	41,162
5	2,620	4,660	5,768	3,308	4,546	2,567	3,175	2,584	1,560	2,076	2,293	2,732	37,889
6	2,473	4,580	5,791	3,424	3,703	2,560	2,697	2,720	1,869	1,898	2,303	2,706	36,724
7	2,111	5,044	5,147	3,310	4,164	2,516	3,187	3,135	1,322	1,690	2,411	2,750	36,787
合計													672,766

3-5 登呂遺跡（復元遺構）の活用

登呂遺跡は、平成 18 年度から平成 23 年度にかけて再整備事業が行われ、遺構の保護と再整備により整えられた空間や機能を活かし、継続的に登呂遺跡を活用している。

（1）復元住居区域の活用

遺跡内の住居復元区域では、屋外体験を指導するとともに弥生時代の登呂ムラの住人として動的展示物となる「ムラ人」（屋外体験指導員）が火起こし体験や土器炊飯などを行い、弥生時代の生活文化を学習できる機会を提供している。また、区域内の復元建物（住居、高床倉庫、祭殿）は登呂遺跡での弥生集落の景観を示すだけでなく、「祭殿見学会」など博物館の教育普及活動の場にも活用している。

（2）復元水田の活用

遺跡内にある復元水田を弥生時代の景観を復元・維持するとともに市民団体や学校団体、個人に水田での稲作を体験する機会を提供している。また、水田での生物観察や研究者との共同研究、博物館の教育普及活動にも活用している。

3-6 体験学習

（1）屋外体験

- ・登呂の“ムラ人”として遺跡案内を実施
- ・体験学習(火おこし、土器炊飯)の実施と解説
火おこし：実際に着火するまでの実演
土器炊飯：台付甕形土器のレプリカを使用して登呂遺跡で栽培していた可能性がある赤米を炊飯・試食に供している年間 575 人
- ・「屋外体験指導員」（会計年度任用職員：常置配置数 1～4 人）が対応

月	来場案内者	火起こし
4	8,017	1,156
5	16,336	3,105
6	13,460	3,754
7	10,480	2,034
8	14,390	1,505

9	9,250	1,270
10	18,180	1,578
11	11,580	1,702
12	5,140	761
1	6,500	844
2	8,600	1,245
3	10,270	1,228
合計	132,203	20,182

（2）弥生体験展示室

- ・体験学習の実演（臼と杵による脱穀・穂摘み・田下駄）及び解説、パンフレットの配布
- ・貫頭衣着用・丸木舟・土器パズル等体験実施
- ・「体験指導員」（会計年度任用職員：常置配置数 2～3 人）及びボランティアスタッフが対応

（3）図書コーナー

- ・登呂遺跡に関する資料、全国の博物館の展示図録や発掘調査報告書・歴史専門書・こども向けの歴史関連図書を配架
- ・特別展・企画展の関連資料等を陳列
- ・利用者 令和 7 年度：5,819 人
- ・音声ガイドの貸出 利用者：283 人
- ・会計年度任用職員(常置職員数 1～2 名)が対応
※資料・図書等の貸出は行っていない

（4）情報・映像コーナー

- 情報・映像コーナーでは、モニターでの映像案内・ポスター・チラシ等の配架による情報提供・スペースを活用したミニ展示を行っている。
- ・登呂博物館が所蔵する遺物・図書の検索
- ・市内の観光案内などの情報の提供
- ・全国の博物館や公共施設等の催事情報を提供
- ・第 53 階静岡ホビーショー記念展示（5 月）
- ・博物館実習生による展示（8 月～9 月）
- ・國學院大學大学院博物館学研究室による展示（10 月）
- ・静岡市立南部小学校 博物館ジャックの成果展（10 月～11 月）

- ・特別展「和食」関連展示（11～12月）
- ・静岡市文化財課による展示「静岡市文化財展」（12～1月）
- ・フジミ模型共催事業開催記念展示（1～2月）
- ・静岡市立高松中学校2年生の美術作品展示「学校の魅力を伝えるお土産のデザイン」（3～4月）
- ・「トロペーの博物館案内」（映像案内）を常時上映

3-7 組織

静岡市観光交流文化局

歴史文化課

- 文化財保護係
- 埋蔵文化財係 — 埋蔵文化財センター
- 駿府城エリア活性化係
- 三保松原文化創造センター
- 登呂博物館

《登呂博物館職員数》

職員数 19 人・・・登呂博物館長 1 人、主査 1 人、主任主事 4 人、主事 1 人、会計年度任用職員 12 人

《その他》

博物館ボランティア・・・39 人（令和 7 年 4 月 1 日時点）

3-8 予算・決算

（1）令和 7 年度歳入 ※予算額は年度当初の予算額（歳出も同様）

収入科目	予算額	決算額	備考
博物館使用料	5,822,000	6,025,210	博物館観覧料
文化財保護費補助金 （国庫補助金）	2,231,000	2,229,000	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 （出土品保存修理事業）
使用料	10,000	10,500	博物館施設使用料（行政財産：電柱等）
土地貸付収入	3,098,000	2,767,948	一般土地貸付料（普通財産：駐車場土地ほか）
各種発行物売払収入	499,000	703,780	図録売払収入
教室等会費収入	311,000	156,600	講座・講演会参加料
雑収	136,000	137,442	社会教育費雑入（ミュージアムショップ光熱費）
文化芸術振興費補助金 （国庫補助金事業）	1,990,000	1,424,769	InnovateMUSEUM 事業
合計	12,045,000	12,030,480	

(2) 令和7年度歳出

ア 公園管理費

支出科目	予算額	決算額	備考
需用費	728,000	669,105	
光熱水費	(650,000)	(598,705)	電気代・水道
(維)修繕料	(78,000)	(70,400)	登呂遺跡北側ガイダンストイレ修繕費
委託料	882,000	878,521	北側ガイダンス施設トイレ清掃委託ほか
合計	1,610,000	1,547,626	(ア)

イ 文化財保護費

支出科目	予算額	決算額	備考
<文化財保護管理費>			
需用費	1,624,000	1,375,431	
消耗品費	(200,000)	(190,831)	水田管理用品ほか
燃料費	(25,000)	(21,918)	耕運機燃料ほか
光熱水費	(728,000)	(491,682)	電気・ガス・水道代
(維)修繕料	(671,000)	(671,000)	遺跡修繕費
役務費	42,000	38,814	電話代ほか
委託料	5,530,000	5,503,536	遺跡清掃、植栽管理業務委託
委託料(政策)	561,000	561,000	燻蒸業務
<文化財整備活用事業費>			
旅費	87,000	84,380	出土品修理の指導監督に係る旅費
消耗品費	5,000	4,620	パネルほか
委託料	4,370,000	4,369,971	重要文化財登呂遺跡出土品保存処理
合計	12,219,000	11,937,752	(イ)

ウ 給与費

支出科目	予算額	決算額	備考
報酬	184,000	149,500	博物館協議会委員報酬
合計	184,000	149,500	(ウ)

エ 博物館管理運営費

支出科目	予算額	決算額	備考
報償費	303,000	303,000	企画展関連講座、教育普及事業講師謝金ほか
旅費	359,000	219,681	展示準備関係旅費ほか
需用費	15,402,000	14,525,683	
消耗品費	(1,095,000)	(1,094,228)	一般事務及び管理用品ほか
消耗品費（政策）	(40,000)	(10,769)	
燃料費	(2,000)	(1,881)	
食糧費	(5,000)	0	
印刷製本費	(2,434,000)	(2,382,258)	企画展ポスター・チラシほか
光熱水費	(8,179,000)	(8,158,895)	電気・水道代
光熱水費（政策）	(1,800,000)	(1,150,932)	
(物)修繕料	(185,000)	(67,320)	物品等修繕料
(維)修繕料	(1,662,000)	(1,659,400)	博物館施設修繕工事費
役務費	1,634,000	1,350,280	電話代・クリーニング代ほか
役務費（政策）	253,000	250,436	
委託料	25,355,000	24,873,029	施設管理のための業務委託ほか
委託料（政策）	2,320,000	1,783,600	券売機保守管理業務委託、登呂博物館所蔵資料デジタルデータ化業務委託ほか
使用料及び賃借料	6,679,000	6,522,864	複写機使用料、システム使用料ほか
備品購入費	255,000	253,110	
負担金、補助及び交付金	64,000	58,000	日本博物館協会負担金ほか
工事請負費	99,000,000	82,407,600	屋上デッキ等改修工事
合計	151,624,000	132,547,283	(エ)

オ 観光総務費

支出科目	予算額	決算額	備考
負担金、補助及び交付金	1,388,000	1,388,000	登呂まつり補助金
合計	1,388,000	1,388,000	(オ)

カ 歳出総計

	予算額	決算額	備考
総計	167,025,000	147,570,161	(ア) + (イ) + (ウ) + (エ) + (オ)

4 展示

4-1 春季企画展「しずおかタイムトラベル 2025～登

呂遺跡のマエとアト～」

会期：令和7年4月26日（土）～ 6月29日（日）

《55日間》

概要：登呂遺跡のあった弥生時代を中心に、静岡市内の遺跡から発掘された出土品を展示する。静岡市域の縄文時代から古墳時代について、考古学や発掘調査で覗き見ることのできる歴史を紹介する。

観覧者：10,421人

一般	4,206人
高校生・大学生	359人
小学生・中学生	5,856人

点数：176点

印刷物：（1）ポスター（B2、A3）

B2：330枚、A3：1,580枚

（2）企画展チラシ（A4）

15,100枚

担当者：松原 草太



関連事業

(1) 関連講座「文化財がいっぱい！静岡市学芸員のイチオシトーク」(全3回)

内 容：静岡市で文化財の調査・保存・活用を担う学芸員がイチオシの文化財や静岡市の歴史にまつわることを話す。

日 時：①令和7年5月24日(土) 13:00-14:30

②令和7年5月31日(土) 13:00-14:00

③令和7年6月7日(土) 13:00-14:00

場 所：登呂博物館1階交流ホール

講 師：①歴史文化課 埋蔵文化財係 黒澤 諒氏「しずおかのアクセサリー(弥生時代篇)」、歴史文化課(静岡市歴史博物館)熊谷 すずみ氏「ミカンも文化財?!～意外と知らない家康手植の蜜柑～」、歴史文化課 登呂博物館 渡邊 智大氏「守れ！博物館のお宝～迫りくる7つの敵～」

②歴史文化課 埋蔵文化財係 毛利 舞香氏「振り返ると前方後円墳～静岡清水平野の古墳と歴史～」、歴史文化課 三保松原文化創造センター 五十嵐 遙氏「三保松原ってどんなところ?～芸術作品からみる三保松原～」

③歴史文化課 登呂博物館 松原 草太氏「のぞいてみよう 発掘された井戸～水を求める静岡人～」、歴史文化課 文化財保護係 森山 郁真氏「平安時代から鎌倉時代の久能寺について～このお寺は平氏とつながっているの?源氏とつながっているの?～」

参加者：①29名 ②26名 ③31名 計86名

(2) 展示解説

日程：5月4日(日)、6月15日(日)

時間：10:30～、14:00～

会場：登呂博物館2階 特別・企画展示室

料金：無料(要観覧料)

人数：114人

広報・報道

- ・静岡市広報紙『静岡気分』5月号
- ・『すろーかる』5、6月号(5月号クローズアップ記事併載)
- ・静岡県文化振興財団『グランシップマガジン41号』
- ・静岡鉄道 駅貼りポスター4/26～5/16
- ・月刊トコチャン6月号
- ・Web サイトへの登録
- ・静岡新聞



4-2 夏季企画展「いせきのZOO～出土品にみる動物たち～」

会期：令和7年7月19日(土)～9月15日(月祝)
 ≪51日間≫

概要：市内遺跡出土品を中心に、動物の骨や角、それらを用いた道具、動物を描いたものやかたどったものを展示し、古代の人々と動物の関係を紹介した。

観覧者：6,744人

一般 4,532人

高校生・大学生 470人

小学生・中学生 1,742人

点数：75点

資料協力：静岡県埋蔵文化財センター
 ふじのくに地球環境史ミュージアム
 東海大学人文学部丸山研究室
 掛川市

印刷物：(1) ポスター (B2、A3)
 B2：330枚、A3：1,580枚
 (2) チラシ (A4)
 15,100枚

担当者：渡邊智大



関連事業

(1) 関連公募写真展「2000 年後の登呂ムラと動物たち」

概要：登呂遺跡で撮影された動物の写真をコメントと合わせて応募し、エピローグにて展示した。来館者には応募作品にお気に入りシールを貼ることで、企画への参加を促した。

応募期間：令和 7 年 6 月 24 日（火）から令和 7 年 8 月 31 日（日）23:59 まで

応募方法：博物館ホームページから電子申請

会場：登呂博物館 2 階特別・企画展示室

展示作品：38 点



(2) 関連講演会「考古学から見るイルカ食」

概要：第 1 章で展示した鷹ノ道遺跡出土イルカ頭骨に関連して、静岡や他の地域で見られるイルカと人間のかかわりを考古学的視点から語っていただいた。また、動物考古学の研究方法についても紹介いただいた。

日時：令和 7 年 8 月 30 日（土）、13:30～15:00

会場：登呂博物館 1 階 登呂交流ホール

講師：東海大学人文学部 丸山真史 教授

料金：無料

人数：37 人



(3) 関連イベント「動物形の土人形をつくろう」

概要：ワークシートを用いて展示室を見学して、オリジナルの動物形土製品と作成の意図を書いたキャプションを作る体験を行った。

日時：8 月 3 日（日）

①10:00～11:00 ②13:00～/14:00

会場：登呂博物館 2 階企画展示室及び 1 階登呂交流ホール

料金：無料（ただし要観覧料）

人数：45 人（①24 人、②21 人、各回定員 30 人）

(4) 関連企画「いせきも ZOO 登呂遺跡公園を現代美術動物園に（柴田美千里作品の展示）」

概要：彫刻作品作家の柴田美千里氏（藤枝市出身）が作成した動物形現代美術作品 9 点を、登呂公園学びの広場に 8 体、博物館屋上に 1 体展示した。

日時：夏季企画展会期中



会場：登呂遺跡学びのひろば及び登呂博物館 3 階屋
上展望エリア

(5) 展示解説

日時：8 月 11 日（月祝）、8 月 24 日（日）、
9 月 14 日（日）

時間：10：30～、14：00～

会場：登呂博物館 2 階 特別・企画展示室

料金：無料（要観覧料）

人数：106 人



広報・報道

- ・静岡市広報紙『静岡気分』7月号
- ・『すろーかる』6、7、8、9月号
- ・静岡鉄道駅貼りポスター 8/2～8/22
- ・静岡県文化振興財団『GRANSHIP マガジン 42 号』
- ・『日本歴史』2025 年度前期
- ・『ニュースがわかる』7 月 15 日発売号
- ・月刊トコチャン 8 月号
- ・各 web サイトへの登録
- ・ドライブインフォメーション（8 月 2 日）
- ・山梨日日新聞（7/12）
- ・静岡新聞 ・朝日新聞
- ・アットエスしずおか文化談話室
- ・静岡朝日テレビ「とびっきり！しずおか」
- ・S-Wave「shizuoka Vibes」 など

4-3 秋季企画展「大昔へのまなざし ～大昔への生活をどうイメージしてきたか～」

会期：令和7年10月4日（土）～12月7日（日）

≪56日間≫

概要：先人たちの「私たちの遠い祖先が、どんな生活をしていたのか」の探求によって導き出された研究成果が、その時々、表現者たちによってイメージ化され、作品（絵画・小説・漫画・アニメ・音楽など）となった。それらを通して、大昔の人々の生活の様子が私たちにどう定着してきたかを紹介した。



観覧者：6,346 人

一般	4,622 人
高校生・大学生	253 人
小学生・中学生	1,471 人

点数：283 点

印刷物：（1）ポスター（B2、A3）

B2：330 枚、A3：1,560 枚

（2）チラシ（A4）

15,100 枚

担当者：岡村 渉



関連事業

(1) 関連講演会「マンガ作品にみる旧石器～古墳時代のイメージ」

概要：企画展の中で、大昔の人々の様子を、特にマンガやアニメではどのように表現しているか、その背景はどうなっていたのかを参加者に知ってもらうことで、展示内容の理解を深めた。

日時：令和7年11月23日（日）

14：00～16：00

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール

講師：尚美学園大学総合政策学部 客員教授

櫻井 準也 氏

参加者：46人

(2) 展示解説

日程：10月18日（土）、11月30日（日）

時間：11：00～、14：00～

会場：登呂博物館2階 特別・企画展示室

料金：無料（要観覧料）

人数：29人

広報・報道

- ・静岡市広報紙『静岡気分』10月号
- ・『すろーかる』10、11、12月号
- ・『日本歴史』2025年度後期
- ・ドライブインフォメーション（11/15）
- ・静岡県文化振興財団『GRANSHIP マガジン 43号』
- ・静岡新聞（11/14朝刊）漫画下広告
- ・各webサイトへの登録 など



4-4 企画展「駿河国分寺跡－片山廃寺跡から駿河国分寺跡へ－」

会期：令和8年1月10日（土）～令和8年3月22日（日）

≪61日間≫

概要：2025年に史跡の指定名称が変更され、指定60周年を迎えた駿河国分寺跡（片山廃寺跡）をテーマに、駿河国分寺とはどのような寺院だったのか発掘調査成果などから考えられる施設や遺構、遺物の紹介、ほかの国分寺との比較を通し、駿河国分寺を紹介する。



観覧者： 5,483 人

一般	4,319 人
高校生・大学生	302 人
小学生・中学生	862 人

点数：124 点

資料協力：磐田市文化財課

三島市文化財課

鈴鹿市考古博物館

高松市讃岐国分寺跡資料館

印刷物：（1）ポスター（B2、A3）

B2：330 枚、A3：1,560 枚

（2）チラシ（A4）

15,100 枚

（3）図録（A4、44 ページ）

550 部

担当者：松原 草太



関連事業

(1) 関連講演会「片山廃寺跡から駿河国分寺跡へ-史跡名称変更の意義-」

概要：史跡名称変更された駿河国分寺跡（片山廃寺跡）について、史跡整備委員会や名称変更に大きく携わっている上原氏に氏寺と官寺という対比から古代寺院の歴史的理解についてご講演いただいた。

日時：令和8年3月1日（日）13：30～15：30

会場：登呂博物館1階登呂交流ホール

講師：京都大学名誉教授 上原真人 氏

人数：76人



(2) 展示解説

日程：①令和8年1月12日（月祝）

②令和8年2月8日（日）

③令和8年3月21日（土）

時間：10：30～、14：00～

会場：登呂博物館2階 特別・企画展示室

料金：無料（要観覧料）

人数：①49人 ②39人 ③65人 計153人



広報・報道

- ・静岡市広報紙『静岡気分』1・2月号
- ・『すろーかる』1、2、3月号
- ・静岡鉄道駅貼りポスター 2/1～2/28
- ・静岡新聞 ・月刊トコチャン2月号
- ・静岡駅北口地下道横断幕 12/27～1/2
- ・静岡県文化振興財団『GRANSHIP マガジン 44号』
- ・『日本歴史』2025年度後期
- ・各webサイトへの登録

4-5 特別展・企画展開催実績（リニューアル後） ※網掛けは特別展

年度	期	展覧会名	観覧者数
22	2010.10.3～12.5	ひらけ！弥生の扉 弥生人の脳に刻まれた記憶	16,413
	2010.12.18～2011.1.30	うつわ展	4,595
	2011.2.19～3.27	子どもたちの考古学 考古学はじめての一步	5,817
23	2011.4.23～6.19	復元された古代建物 はじまりは登呂遺跡	18,937
	2011.7.9～9.4	登呂遺跡発掘物語 子どもたちに伝えよう登呂遺跡の価値	11,833
	2011.9.23～10.30	発掘された日本列島 2011	8,780
	2011.11.10～12.4	古代へのまなざし 芹沢銈介が愛した縄文・弥生	4,006
	2011.12.17～2012.1.27	弥生ファッションショー	3,766
	2012.2.11～3.20	赤い土器の世界 登呂式土器の赤彩を探る	4,070
24	2012.4.21～7.1	わがまちの遺跡展 登呂のとなりムラ鷹ノ道遺跡	13,877
	2012.7.14～9.23	登呂博物館開館 40 周年記念展 登呂遺跡はじめて物語 ～40 メモリーズ～	12,410
	2012.10.6～12.9	舟の力 ～古代人があこがれたノリモノ～	7,275
24-25	2013.1.12～6.30	米づくりの今昔 ～見て、触って、動かす農具～	29,972
25	2013.7.13～9.23	登呂のうた	8,881
	2013.10.5～12.8	特別史跡登呂遺跡発見 70 周年記念 弥生の戦い ～その時登呂ムラは!?～	5,925
25-26	2014.1.11～6.29	静岡の水田遺跡	23,787
26	2014.7.12～9.28	きっかけは登呂遺跡	9,392
	2014.10.11～12.7	縄文そして登呂 ～八ヶ岳山麓から駿河湾まで～	5,103
26-27	2015.1.17～6.21	祭礼のかたち	20,582
27	2015.7.11～9.23	豊かな水源に生きる	8,767
	2015.10.10～12.7	登呂のいす展	4,261
27-28	2016.1.16～5.29	登呂の食事情	21,211
28	2016.6.18～9.4	重要文化財登呂遺跡出土遺物展	8,983
	2016.9.17～12.4	弥生×登呂	6,949
	2017.1.7～3.5	静岡考古展	4,520
28-29	2017.3.18～6.4	石の刃物 鉄の刃物	13,559
29	2017.6.24～9.3	登呂発掘と静岡市の近現代	8,747
	2017.9.30～11.26	東海土器五十三次展	4,748
	2018.1.6～3.4	こだいの「ふふっ」展	5,011
29-30	2018.3.21～6.10	ウトウ・トロ・タカノミチ	14,025
30	2018.6.30～9.9	富士山がみえる	7,008
	2018.9.29～12.16	平成×登呂	5,155
	2019.1.12～3.3	登呂をとめ 安倍をとこ	3,121
30-31	2019.3.23～6.16	石をつかった、土器をつくった。－静岡市の旧石器・縄文時代－	15,276

年度	期	展覧会名	観覧者数
1	2019.7.13～9.8	FIRE	6,697
	2019.10.5～12.1	芹沢銈介と考古(学)	4,139
	2020.1.11～3.1	古墳のきらめき ― 賤機山古墳展 ―	3,650
1-2	2020.3.20～6.14	お米づくり、はじめました。 ― 静岡市の弥生時代 ―	1,482
2	2020.7.3～9.13	実測	6,695
	2020.10.3～11.29	水とともに生きる	5,812
	2021.1.9～2.28	「ちっちゃ」展	2,885
2-3	2021.3.20～6.13	前方後円墳がやってきた	9,129
3	2021.7.3～9.12	ひょっこり有度山展	5,456
	2021.10.2～11.28	WOOD -木を活かす弥生人-	6,443
	2022.1.8～2.27	真っ直ぐな刀展	2,974
3-4	2022.3.19～6.12	誕生スルガノクニ ― 静岡市の奈良・平安時代 ―	11,640
4	2022.7.9～8.28	登呂博今昔ものがたり	6,746
	2022.9.17～11.6	祀りとまつり展	4,860
	2022.12.3～2023.1.29	コメ作りの考古学と民俗学	3,452
4-5	2023.2.25～5.21	静岡に眠る弥生時代の開拓者	9,016
5	2023.6.17～8.27	登呂遺跡で考える SDGs	10,423
	2023.9.23～11.19	アンダー・ザ・駿府城	5,064
	2023.12.9～2024.2.4	登呂遺跡と海	3,293
	2024.2.23～5.12	古代の稲作と実験考古学	7,957
6	2024.6.8～9.1	しずおかタイムトラベル ～縄文時代から奈良・平安時代をたどる～	10,931
	2024.9.28～12.15	登呂遺跡を未来へつなぐ～魅せる、登呂遺跡出土品の保存 処理	6,646
	2025.1.25～4.6	西の登呂、静岡に初上陸～大分県国東市安国寺集落遺跡と 登呂遺跡～	5,720
7	2025.4.26～6.29	しずおかタイムトラベル 2025～登呂遺跡のマエとアト～	10,421
	2025.7.19～9.15	いせきの ZOO～出土品にみる動物たち～	6,744
	2025.10.4～12.7	大昔へのまなざし～大昔の生活をどうイメージしてきた か～	6,346
	2026.1.10～3.22	駿河国分寺展～片山廃寺跡から駿河国分寺跡へ～	5,483

4-6 通常展示

(1) 常設展示室(博物館2階)

概要：登呂遺跡にあった集落(ムラ)の生活を紹介する展示室。

平成11年から15年にかけて行われた登呂遺跡再発掘調査の成果を示しながら、ムラを再現したジオラマや映像媒体などを使った、直感的な展示を行っている。日本考古学史上大きな役割を果たした登呂遺跡の発掘調査について、当時発掘にかかわった人々へのインタビュー映像や新聞記事などの資料で分かりやすく伝えている。また、平成28年に国の重要文化財に指定された出土品も数多く展示されている。

資料：重要文化財登呂遺跡出土品など

点数：約350点



(2) 弥生体験展示室(博物館1階)

概要：登呂博物館の特徴の一つである「体験学習」を行うための展示室。弥生時代の登呂ムラを再現している。壁に描かれた風景と、復元された建物・道具によって、登呂ムラの様子が復元されている。貫頭衣試着体験や、弥生時代の米づくりの体験が可能なスペースとし、当時使われていた様々な道具を実際に手に取り使用できる。

室内には、体験指導員や博物館ボランティアが常駐し、来館者の体験補助と説明を行っている。

博物館1階は無料で体験できる。



4-7 資料貸出(出土品等)

(1) 貸出先：朝日新聞社

展示名：「和食～日本の自然、人々の知恵～」

展示期間：令和7年10月11日(土)から令和7年12月14日(日)

対象：炭化米 1式



5 保存

5-1 修理事業

(1) 登呂遺跡出土品

登呂遺跡は昭和18年に発見された弥生時代後期の集落跡及びそれに隣接する水田跡を中心とした遺跡。戦後の昭和22年から25年にかけては、各大学の連携による学際的で大規模な調査が行われた。その調査は学史的にも有名なものである。

出土品は、土器と木製品が中心で、これらが「弥生時代の生業や集落の実態を初めて学界に示した遺跡からの出土品で、戦前から戦後にかけての日本考古学の研究史を語るうえで欠かせない資料」として、775点が平成28年に重要文化財に指定された。

(2) 修理概要

出土品は保存処理が行われておらず脆弱な状態のものが多いため、平成30年度から保存修理事業を開始した。まずは14年間をかけて木製品を中心とした458点の修理を行う。

修理は、出土品にとって優しく必要最低限なもので、可逆的な方法で実施する。

所有者：静岡市（実施：静岡市教育委員会）

期間：平成30年度～令和13年度

費用：文化庁補助金(1/2)、静岡市(1/2)

対象：458点

(3) 基本的な修理方法

ア 記録

将来的な再処理も見据えて、事前の記録、処理工程・使用薬剤の記録、事後の記録などを確実にとる。

イ クリーニング

資料に損傷を与えない方法で表面に付着する汚れを除去する。

ウ 安定化処理・修復

基本的に樹脂を含侵させて、資料を強化する。ただし、素材やその状態に応じて処理内容を検討する。

亀裂があるものや折れているものは、樹脂含侵に加えて損傷部の補填・接合を行う。

エ 保存

一部の脆弱な資料について、保存台を作成する。

(4) 令和7年度実績

数量：31点

修理：静岡県埋蔵文化財センター

運搬：日本通運株式会社静岡支店

指導監督：文化庁文化財第一課

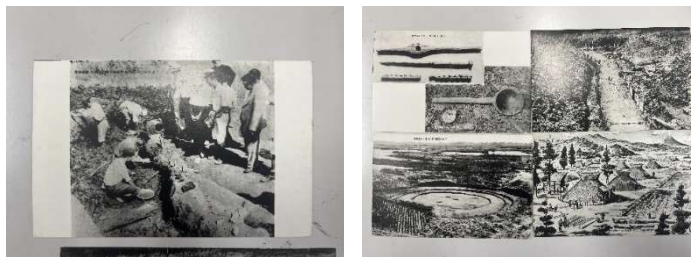
経費：4,462,094円

5-2 寄附・寄贈

(1) 対象：登呂遺跡絵はがき

数量：5 点

寄附者：個人



(2) 対象：表採資料（伝登呂遺跡出土）

数量：計 10 点

寄附者：個人



6 活用（各種イベント含む）

6-1 主催事業

（１）登呂遺跡復元水田活用事業（団体水田・学校水田）

概要：遺跡内にある復元水田を市民団体・学校団体等に貸し出し、赤米などの稲作を行う。弥生時代の景観を復元・維持し、水田での活動を体験する場所を提供する。

期間：令和７年４月～令和７年１１月

会場：復元水田

料金：無料

参加者：23 団体



（２）市民水田「登呂遺跡の田んぼで赤米づくり体験」

概要：個人を対象に小区画水田を貸し出し、田起こしから赤米の田植え・脱穀・粃摺りまでの稲作体験を行う。

期間：令和７年４月～令和７年１１月

会場：復元水田

料金：1,000 円

参加者：42 組（42 区画）



（３）田植え体験・ジャンボタニシ拾い

概要：復元水田に赤米の苗を植える。また、水田のジャンボタニシ拾いも同時に実施した。

日時：令和７年５月１８日（日）、２５日（日）、６月１日（日）、
８日（日）、１５日（日）の５日間

会場：復元水田

料金：無料

人数：田植え体験 278 人、ジャンボタニシ拾い 199 人



（４）登呂の田んぼで生物観察

概要：復元された登呂遺跡で生物観察を行う。

日時：令和７年７月１２日（土）１０：００～１２：１５

会場：登呂博物館１階 登呂交流ホール、登呂遺跡

協力：常葉大学教育学部 久留戸教授、同研究室学生 9 人
静岡市環境学習指導員 守屋氏

料金：無料

人数：11 人（定員 12 人）



(5) とろムラ体験 Week !

概要：夏休みの来館者を対象に、ミニチュア土器づくり、丸木舟乗船、弓矢等の体験やイベントを行う。

日時：令和7年5月3日（土）～5月5日（月祝）

10：00 ～ 15：00

会場：登呂博物館、登呂遺跡

料金：無料

人数：計 1,573 人



(6) ドロン子パーク

概要：より小さな子どもたちに、登呂遺跡の水田に親しみをもってもらえるようにする。

期間：令和7年8月3日（日）、11日（月祝）、17日（日）、24日（日）、31日（日）の5日間

※10日（日）は雨天中止

会場：登呂遺跡内復元水田

料金：無料

参加者：137 人



(7) みごほうきづくり体験

今年度からボランティア主催事業として実施。

詳細は10（5）に記載。

(8) 復元祭殿見学会

概要：祭殿の扉を開放し、梯子を使って祭殿内をのぞき込む。中には複製の祭祀具等を配置し、まつりの様子を感じることができるようにした。また、博物館1階登呂交流ホールにて静岡雅楽愛好会「みやび会」による雅楽の演奏会を実施した。

日時：令和7年10月11日（土） 10：00～15：30

会場：登呂遺跡復元祭殿前及び登呂博物館1階登呂交流ホール

料金：無料

人数：祭殿見学会：160 人

雅楽演奏会：50 人



(9) 赤米収穫体験～稲刈り～

概要：石包丁を使った稲刈り（穂摘み）と簡易的な脱穀・
粃摺りを体験する。

日時：令和7年10月5日（日）、12日（日）、13日（月祝）、
18日（土）、19日（日）の5日間

※26日（日）雨天中止

会場：復元水田

料金：100 円

人数：519 人



(10) 赤米収穫体験～石器づくり～

概要：様々な形の石を研いで石器をつくる。

日時：令和7年9月7日（日）、14日（日）、15日（月祝）、
21日（日）、23日（火祝）、28日（日）の6日間

会場：登呂遺跡 祭殿下

料金：200 円

人数：167 人



(11) 登呂遺跡探検ツアー

概要：スルガフェスの体験ブースの一つとして出店した。

日時：令和7年10月18日（土）10：00～15：00

会場：登呂遺跡、登呂博物館

参加者：46 人



(12) しめ縄づくり体験「お正月は手作りのしめ縄で」

概要：復元水田で収穫した稲の藁でしめ縄を作る。

日時：令和7年12月20日（土）9：30～12：30

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール

講師：登呂博物館ボランティア

料金：300 円

人数：40 組



(13) お年玉プレゼント

概要：常設展観覧者に対し、登呂遺跡復元水田で収穫した
稲穂を小袋に入れたものを配布する。

日程：令和8年1月4日（日）

場所：登呂博物館2階 常設展示室前

料金：無料（要観覧料）

数量：300 個



(14) どんど焼き（天候不良により当日中止）

概要：しめ縄づくり体験で作成したしめ縄を焚き上げ、
豊穡を祈願する。

日時：令和8年1月11日（日） 11：00～11：30

場所：登呂遺跡

料金：無料

人数：なし

(15) 弥生土器づくり体験

概要：土器についての知識を学び、土器の成型から野焼きまでを行う。今年度は小学1～4年生を対象とした「家族で弥生土器を作ろう」コースと小学5年生～大人を対象とした「登呂式の土器づくりにチャレンジ」コースを設定した。

日時：令和8年2月14日（土）、3月14日（土）

会場：登呂博物館1階交流ホール、登呂遺跡

料金：100円

人数：「家族で弥生土器を作ろう」コース：19人

「登呂式の土器づくりにチャレンジ」コース：10人



6-2 共催・連携事業

(1) 登呂人の田下駄を作ろう

概要：田下駄の作成を体験し、成果物を水田に見立てたマットの上で履く体験を行った。

日程：令和7年7月29日（火）10：00～12：00

会場：登呂博物館、登呂遺跡体験サポート室

人数：8人

連携先：南部生涯学習センター



(2) 國學院大學大学院博物館学研究室連携企画

「安本博と考古館－静岡考古館七〇周年－」

概要：國學院大學博物館で行われた、安本博と登呂遺跡の発掘調査・静岡考古館に関連する資料の展示を、登呂博物館にて開催した。

会期：令和7年10月3日（金）～10月29日（水）

会場：登呂博物館1階 情報・映像コーナー

連携先：國學院大學大学院博物館学研究室



(3) 静岡市文化財展

概要：前年度に静岡市内から出土した資料などを展示。

会期：令和7年12月13日（土）～1月18日（日）

会場：登呂博物館1階 情報・映像コーナー

展示解説参加者数：14人

連携先：静岡市歴史文化課



(4) 駿河トロペーWeek2025

概要：駿河区役所周辺の企業・施設・団体が一体となり、各所で様々なイベントが繰り広げられる。

日時：令和7年10月11日（土）～19日（日）

会場：駿河区役所、登呂博物館・登呂遺跡ほか

連携先：駿河区地域総務課



(5) 第63回登呂まつり

概要：登呂遺跡の歴史文化を紹介し、地域の活性化を図るためのおまつり。

日時：令和7年10月11日（土）、12日（日）

会場：登呂遺跡

連携先：登呂まつり実行委員会



(6) スルガフェス

概要：秋をテーマとして、駿河区の自慢の”食”と楽しい
“ワークショップ・アクティビティ”が集結。

日時：令和7年10月18日（土）10：00～15：00

会場：登呂遺跡、登呂博物館

来場者数：約9,000人

連携先：駿河区地域総務課



(7) 登呂博物館 ナイトミュージアム

概要：トロペーWeekの連携事業として、博物館の夜間特別
開館に加え、遺跡のライトアップ等を行った。夜間開館
では、ピアノコンサート・屋上カフェの出店・謎解き探
検を開催した。

日時：ライトアップ

令和7年10月11日（土）、12日（日）、13日（月祝）

18：00～20：00

夜間開館

令和7年10月13日（月祝） 18：00～20：00

会場：登呂遺跡・登呂博物館

人数：271人（博物館入館者数）

連携先：芹沢銈介美術館、城南静岡高等学校・中学校 地域貢
献部、静岡大学田宮研究室



(8) 登呂米収穫の喜びを味わおう

概要：石器づくり、収穫、土器炊飯、試食までの流れを体験
し、稲作の流れの一部を体験する。また、稲わらを使
ったしめ縄づくりを体験する。

日程：令和7年11月1日（土）、令和7年11月29日（土）

各10：00～12：00

会場：登呂遺跡・登呂博物館

人数：のべ25人

連携先：南部生涯学習センター



(9) 城南静岡高校地域貢献部×登呂博物館

「ちいきのみかた café」

概要：城南静岡高校地域貢献部が商品開発した「赤米バーガー」と「赤米団子」を販売した。どちらの商品にも登呂遺跡復元水田で地域貢献部は栽培・収穫した赤米が使用されている。

日程：令和7年5月3日（土）・5月4日（日）、令和7年7月19日（土）から令和7年8月9日（土）の各土曜日（全4回）、令和7年11月15日（土）

11：00～14：00

※令和7年11月22日（土）には和食展（清水マリニビル）に共同出展

会場：登呂遺跡 学びの広場

連携先：城南静岡高等学校・中学校 地域貢献部



(10) 静岡市立登呂博物館×フジミ模型共催事業

「プラモデルで切り取る登呂遺跡」

概要：プラモデル『登呂遺跡』を製造・販売する市内企業「フジミ模型株式会社」と共同し、プラモデル『登呂遺跡』にまつわる特別座談会や、プラモデル『登呂遺跡』を制作するワークショップ、フジミ模型製品の販売、登呂博物館で制作した展示ジオラマの展示等を行った。

日程：令和8年2月21日（土）10:00～15：00

会場：登呂博物館1階登呂交流ホール

人数：

第1部「プラモデル『登呂遺跡』制作秘話」：30人

第2部「プラモデル『登呂遺跡』制作体験」：30人

連携先：フジミ模型株式会社



6-3 その他事業

(1) 登呂遺跡・韓国松菊里遺跡交流事業

「第7回扶余松菊里青銅器まつり」

概要：韓国伝統文化大学から依頼を受け、韓国・扶余の松菊里遺跡で行われるまつりに登呂博物館のブースを出展し、ミニチュア土器づくり体験を実施した。また、同会場で行われた記念講演会に登壇し、「登呂遺跡の整備と活用～韓国・日本の遺跡間の交流を目指して～」と題して登呂遺跡と復元水田での事業を紹介した。

日時：令和7年4月26日・27日 10:00～16:00

会場：松菊里遺跡（韓国扶余郡）

人数：ミニチュア土器づくり50人、記念講演会30人

連携先：韓国伝統文化大学



(2) 「百済木像貯蔵施設と東アジア文化の比較」

概要：韓国伝統文化大学校から依頼を受け、伝統文化大学校で行われたシンポジウムに当館館長が講師として登壇した。『登呂遺跡における建築材の出土状況と建築物の復元』と題し、登呂遺跡の建物復元について紹介した。

日時：令和7年8月28日（金）

会場：韓国伝統文化大学校 温知館ホール

連携先：韓国伝統文化大学校、忠南歴史研究院



(3) 演劇ワークショップ「弥生人の会話劇をつくろう」

概要：文化政策課主催「まちかど THEATER」での演劇ワークショップにて、登呂ムラで暮らす弥生人の会話を想像し、会話劇を作成するイベントを登呂博物館にて実施した。

日時：令和8年1月31日（土）、2月1日（日）

会場：登呂博物館

連携先：観光交流文化局文化政策課

人数：1月31日（土）17人、2月1日（日）15人

7 教育普及

7-1 学校見学（ガイダンス、案内等）

小学校 135 校

中学校 13 校

7-2 講師派遣・出張講座

（1）市政出前講座

「その価値、国宝級?! 特別史跡登呂遺跡」

概要：静岡を代表する遺跡である登呂遺跡について解説・体験する。

・静岡市立清水浜田小学校

日時：令和7年5月14日（水） 8時40分～9時25分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太、渡邊 智大

人数：21 人

・静岡市立南部小学校

日時：令和7年5月22日（木） 9時30分～11時20分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太、渡邊 智大

人数：51 人

・静岡市立賤機南小学校

日時：令和7年6月27日（金） 9時35分～11時25分

講師：登呂博物館学芸員 松原草太、渡邊 智大

人数：84 人

・みなのかい

日時：令和7年9月4日（木） 9時45分～11時15分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太、清水 千佳子

人数：27 人

・静岡市立清水高部東小学校

日時：令和7年7月3日（木） 11時25分～15時15分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太、清水 千佳子

人数：103 人

・静岡市立蒲原東小学校

日時：令和7年9月25日（木） 8時30分～10時15分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太、清水 千佳子

人数：38 人

・静岡市立大里西小学校

日時：令和7年9月16日（火） 11時40分～12時25分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太

人数：106 人



・ 静岡市立清水小学校

日時：令和7年10月2日（木）10時40分～11時25分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太

人数：8人

・ 静岡市立高松中学校

日時：令和8年1月22日（木）13時25分～14時15分

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太

（2）国東市歴史体験学習館「令和7年度第3回弥生のムラ歴史講座」

概要：「弥生の原風景 ～登呂遺跡と安国寺集落遺跡～」と題して、令和6年度特別展で扱った登呂遺跡と安国寺集落遺跡について講座を行った。

日時：令和7年7月27日（日）13時30分～15時00分

会場：国東市歴史体験学習館 1階映像ホール

講師：登呂博物館学芸員 渡邊智大

参加者：30人



（3）青谷かみじちフェスタ 2025

概要：鳥取県青谷かみじち史跡公園が主催する鳥取県内の埋蔵文化財関連施設や事業者、全国の弥生遺跡が集まるイベントにブース出展した。題名を「登呂式土器で炊飯&3種の火起こし体験」と称し、持参した登呂式の台付甕形土器のレプリカを用いて遺跡で育てたコメを炊飯し試食する体験と、もみぎり・弓ぎり・舞ぎりの3種の火起こした意見を実施した。

日時：令和7年10月25日（土）10:00～15:00

会場：青谷かみじち史跡公園

講師：登呂博物館学芸員 渡邊 智大

登呂博物館屋外体験指導員 平野 祐司

参加者：159人



（4）しずおか教師塾

概要：しずおか教師塾 17期講座⑦『歴史的な志を知る』

「登呂遺跡再発見：～登呂遺跡に触れる～」として、登呂遺跡・博物館をフィールドに講座を実施。遺跡・博物館見学及び弥生体験（火起こし・土器炊飯・石器づくり・収穫体験）を実施後、グループごとにキャッチフレーズにまとめた。

日時：令和7年10月25日（土）9:00～14:00

講師：登呂博物館学芸員 松原 草太



参加者：27 人（しずおか教師塾塾生）

（5）令和7年度福島県史跡整備市町村協議会研修会

日時：令和7年10月30日（木）13：30～15：30

会場：白河市立図書館（りぶらん）地域交流会議室

講師：登呂博物館館長 岡村 渉



（6）静岡市歴史博物館「わかりやすい歴史・地域のおはなし」

概要：冬季企画展「駿河国分寺展」に先駆け、静岡市内で発掘された古代寺院跡について「発掘された古代寺院跡～駿河国分寺と片山廃寺～」と題し、駿河国分寺を中心に話した。

日時：令和7年12月7日（日）13時30分～14時30分

会場：静岡市歴史博物館 1階市民活動スペース

講師：登呂博物館学芸員 松原草太



（7）サイエンスピクニック

概要：静岡科学館る・く・るが主催する自然科学分野の団体が集まるイベントにブースを出展した。題名を「弥生人と石の道具」と称し、弥生時代の石器についてパネルで紹介し、石器の作成体験を実施した。

日時：令和8年3月7日（土）12：00～16：00

会場：静岡科学館 る・く・る

講師：登呂博物館職員 清水 千佳子

登呂博物館体験指導員 巻田 直紀

参加者：72 人



（8）ESD フォーラムミュージアムジャック

概要：「ミュージアムジャック初年度の取り組み」と題し、「静岡市立南部小学校登呂博物館ジャック」及び「静大生による誌上ミュージアムジャック」の実施報告し、ラウンドテーブルでは登壇した。

日時：令和8年3月7日（土）12：00～16：00

会場：タカミヤ環境ミュージアム

報告者：登呂博物館学芸員 松原草太



7-3 博物館実習・職場体験等

(1) 博物館実習

概要：学生を受け入れ、学芸員資格取得のために必要な博物館実習を実施した。

期間：令和7年7月31日（木）～7日（木）≪7日間≫

人数：14人（定員10人程度）

（内訳）法制大学1 八州学園大学2 成城大学1 専修大学1 聖徳大学1 静岡大学1
東海大学2 信州大学1 国学院大学1 桜美林大学1 韓国伝統文化大学2

内容：1日目 概要説明、館内見学、教育普及案発表

2日目 収蔵庫見学、芹沢銈介美術館見学、保存処理施設見学

3日目 展示計画、教育普及事業準備

4日目 教育普及事業補助

5日目 資料取扱実習、写真撮影実習

6日目 展示準備

7日目 展示準備、展示・発表

(2) 職場体験

中学生の職場体験について、各校おおむね3日程度、一校あたり最大3人で受け入れた。弥生体験展示室での体験補助、屋外体験の補助、登呂遺跡で発見したことの展示ボード作成などの業務を行った。

番号	期間	学校	学年	人数
1	令和7年5月20日（火）～21日（水）	静岡市立大里中学校	2	3
2	令和7年5月20日（火）～22日（木）	静岡市立高松中学校	2	3
3	令和8年1月27日（火）～29日（木）	静岡市立大里中学校	1	2

(3) 登呂博物館ジャック

概要：静岡市立南部小学校の小学6年生が、総合的な学習の時間の探求学習「しずおか学」として、博物館で働く人になりきって、登呂遺跡・博物館について説明した。

期間：令和7年7月16日（水）

人数：約50人

内容：5月22日（木）出前講座（講座・土器片に触る体験）

5月28日（水）社会科見学（博物館・遺跡見学、土器炊飯・火起こし体験）

6月中 学校内で探求のテーマ決め等

7月2日（水）博物館でインタビュー調査

7月16日（水）登呂博物館ジャック（自作リーフレットを用いて発表）

※リーフレットの一部は10月に情報コーナーでも展示

7-4 こども学芸員養成講座

概要：考古学系の学芸員の仕事（発掘・測量・調査研究・展示）を体験する。

日時：令和7年8月16日（土）、8月17日（日）

9：00～16：00

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール、登呂遺跡

料金：無料

人数：計6人（小学4年生～小学6年生）



7-5 教員のための博物館の日 in 登呂博物館

概要：登呂博物館の学校に対する事業・活動や登呂遺跡・登呂博物館・学芸員を知ってもらう。

- ①登呂のムラビト体験編（火おこし・土器炊飯、博物館見学）、②授業に役立つ編（田下駄体験、博物館見学）、③博物館をよく知る編（バックヤードツアー、講座「学芸員ってどんな人」）、各回意見交換会を実施

日時：令和7年8月8日（金）13：00～16：00（①）、令和7年8月9日（土）9：00～12：00（②）、8月9日（土）13：00～16：00（③）

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール、登呂遺跡

料金：無料

人数：①23人、②6人、③2人



7-6 視察等受入

番号	受入日	団体	目的
1	令和7年5月29日（木）	福岡市経済観光文化局文化財活用部文化財活用課	施設見学
2	令和7年10月28日（火）	伊豆の国市企画財政部企画課歴史・文化拠点施設整備室	施設見学

8 広報

8-1 広報印刷物

(1) 登呂遺跡・登呂博物館パンフレット（四つ折り）

登呂遺跡及び登呂博物館の概要を紹介。英語版、簡体字版、繁体字版、韓国語版も用意。



(2) 登呂遺跡イラストマップ（A4）

わかりやすいイラストで登呂遺跡を紹介。



(3) 年間スケジュール（A3）

部数：15,000部

備考：裏面には芹沢銈介美術館の年間スケジュールを掲載。



(4) その他

各種教育普及事業のチラシを適宜作成し、館内に配架したほか、市内小中学校や公共施設、近隣の町内会等に発送。

8-2 ウェブサイト・SNS

(1) 登呂博物館ホームページ

令和2年1月から新しいホームページを公開している。登呂博物館及び登呂遺跡の概要や利用案内、アクセス方法等のほか、各企画展やイベントの情報、お知らせ等を配信する。(https://www.shizuoka-toromuseum.jp)



(2) こどもトロベーパーク

令和2年3月から登呂遺跡の概要を小学生にもわかりやすく説明するウェブサイト「こどもトロベーパーク」を公開している。(https://www.shizuoka-toromuseum.jp/torobepark-info/)



(3) 登呂博物館 X (旧 Twitter)

令和元年10月1日から登呂博物館の公式 X (旧 Twitter) アカウントを開設し、登呂博物館で行われる企画展やイベントに関する最新情報のほか、登呂遺跡の日常風景等を主に写真付きで配信している。(https://x.com/torohaku_torobe)



8-3 報道・広告等

《報道》

(1) テレビ・ラジオ

- ・区役所内広告付き窓口案内表示にて企画展やイベント情報を放映
- ・5月13日 SBS テレビ『Sole いいね!』『ミッションです!横原くん』
- ・7月9日 TOKAI ケーブルネットワーク「トコちゃんねる静岡」
- ・7月15日 S-Wave「shizuoka Vibes」
- ・8月3日 静岡朝日テレビ『とびっきり!しずおか 日曜版』『カミナリの広報丸投げツアー』
- ・8月11日 静岡朝日テレビ『とびっきり!しずおか』県内ニュース
- ・9月17日 SBS テレビ『Sole いいね!』生中継
- ・10月1日 NHK 静岡『たっぷり静岡』『しずらぶ』
- ・12月16日 S-Wave『Take 5』『Shizuoka Quest』

(2) 新聞

- ・静岡新聞 4/1「東西の弥生期遺跡 比べよう」(駿河区・登呂博物館 6日まで企画展)
- ・静岡新聞 5/5「土器や石器 歴史を身近に」(静岡市内で出土 登呂博物館で企画展)
- ・静岡新聞 5/16「若手学芸員トーク来場を呼びかけ」(登呂博物館)
- ・静岡新聞 7/15「田んぼでザリガニ捕まえた」(駿河区・登呂遺跡 児童ら生物観察会)
- ・静岡新聞 7/22「学芸員になりきり学習発表」(南部小 登呂博物館“ジャック”)
- ・読売新聞 8/3「戦後日本 遺跡調査に見た希望」(静岡・登呂遺跡)
- ・静岡新聞 8/7「歴史学び 動物形土人形作り」(駿河区・登呂博物館)
- ・静岡新聞 8/24「博物館と学校『博学連携』拡大」(本物に触れ理解深まる)
- ・朝日新聞 9/4「占いで使用 シカの骨など75点」(登呂博物館 動物テーマの企画展)
- ・静岡新聞 9/8「完成! 弥生時代の石包丁」(駿河区 登呂遺跡『体験』始まる)
- ・静岡新聞 9/15「思い思いに『マイ石器』づくり」(登呂遺跡で体験 20人余り参加)
- ・静岡新聞 10/14「登呂発掘に燃えた夏」(記憶に残る昭和)
- ・毎日小学生新聞 10/22「走れ! 毎小特派員 楽しかった登呂遺跡」(気さくな学芸員さんと)
- ・読売新聞 10/26「火おこし体験 親子ら熱中」(青谷の史跡公園古代の暮らし学ぶ 当館学芸員写真掲載)
- ・朝日新聞 10/29「静大教員ら日本酒造りに奮闘」(学内に「発酵研」登呂博物館の赤米使う)
- ・静岡新聞 12/9「登呂博物館データ国会図書館で公開」(静岡方針)
- ・静岡新聞 12/21「しめ縄飾り上手にできた!!」(駿河区・登呂博物館 親子連れら制作楽しむ)
- ・静岡新聞 2/22「登呂遺跡プラモで組み立て」(当時の建築技術学ぶ)
- ・静岡新聞 3/5「駿河国分寺跡 名称変更の背景解説」(駿河区 登呂博物館で講演)
- ・静岡新聞 12/10「秋の影」(読者のひろば)
- ・静岡新聞 12/22「登呂遺跡の赤米 日本酒に」(初の試作品完成 静岡大×島田・大村屋酒造場)
- ・静岡新聞 3/24「登呂遺跡が特別史跡に」(昭和100年静岡の記憶 1952(昭和27)年3月29日)
- ・静岡新聞 3/25「有東遺跡の土器、石器 文化財に 静岡市」(伊勢湾地方とのつながり評価)

《広告》

(1) 有料広告

- ・すろーかる 5月号 地域クローズアップ企画
- ・月刊 News がわかる 2025 年 7 月号
- ・山梨日日新聞 7/12「静岡イベント・レジャーガイド特集」
- ・るるぶ静岡'26
- ・わお！マップ 静岡県静岡市エリア
- ・静鉄電車駅ポスター掲出（新静岡、新清水他 計 8 駅）
- ・静岡新聞朝刊 11 月 14 日
- ・静岡駅北口地下道横断幕
- ・静岡鉄道 バスフロントマスク
- ・Google ウェブ広告

(2) 無料広告・掲載（主なもの）

- ・『GRANSHIP マガジン』（静岡県文化財団）
- ・『すろ〜かる』（すろーらいふ）
- ・「広報しずおか 静岡気分」（静岡市広報課）
- ・『@エス』（静岡新聞 SBS）
9/3【登呂遺跡で柴田美千里さん（藤枝市出身）の作品展示「いせきも ZOO」】遺跡公園にカラフルな動物オブジェが点々。弥生時代に立ち向かう 21 世紀アート
- ・まっふる静岡
- ・『in Japan Next 2025 秋号』（一般社団法人マーチング委員会）
- ・静岡駅地下道ショーケース（静岡市文化振興財団）
- ・『mydo 駿河区版』（株式会社リック）
- ・『石田街道線みどころ案内』（静鉄ジャストライン）
- ・『静岡駅周辺のご案内』（ゼンリン）
- ・「博物館研究」（日本博物館協会）
- ・「文化財発掘出土情報」
- ・月刊トコチャン

(3) 無料ウェブサイト・その他（主なもの）

- ・静岡市ホームページ、静岡市 Facebook、静岡市 X、歴史文化課 Instagram
- ・Dokka
- ・「IM」（インターネットミュージアム）
- ・MUSCA 全国のミュージアム・カレンダー
- ・「まなぼっと」（静岡県総合教育センター）
- ・「しずはく.net」（静岡県博物館協会）
- ・日本博物館協会ホームページ
- ・日本考古学協会ホームページ
- ・「@ S（アットエス）」（静岡新聞 SBS）
- ・WEB サイト「Good Luck Trip」

8-4 トロペー

平成 22 年の登呂博物館リニューアルに向けて、デザイン及び愛称を公募して平成 21 年に誕生した登呂遺跡・登呂博物館イメージキャラクター。平成 29 年 1 月に駿河区応援隊長にも就任し、登呂遺跡・登呂博物館だけでなく静岡市駿河区全体の PR 活動を行っている。



名前：トロペー

由来：登呂遺跡の「トロ」とおコメ（米）の「ベイ」から

肩書：登呂遺跡・登呂博物館イメージキャラクター兼駿河区応援隊長

活動：博物館内における来館者とのふれあいの他、広報媒体や各種イベントに掲載・出演し、登呂遺跡・登呂博物館を宣伝している。

活用：平成 25 年度から静岡大学登呂博物館ボランティア「STV」がトロペーを活用する活動を開始。

平成 29 年 1 月 24 日には「駿河区応援隊長」に任命され、駿河区地域総務課が主体となり、駿河区のイメージキャラクターとしても活動している。

平成 30 年度には静岡市内にある城南静岡高校（駿河区南八幡町）の「地域貢献部」が、トロペー出演を含むボランティア活動を始めた。

活用状況（駿河区地域総務課が窓口となったものは含まない。）

番号	出演日	出演イベント	出演場所
1	令和 7 年 10 月 12 日（日）	第 63 回登呂まつり	登呂博物館、登呂遺跡



9 博物館協議会

登呂博物館協議会

博物館法第20条第1項及び静岡市博物館条例第11条第1項の規定に基づき、登呂博物館に「静岡市立登呂博物館協議会」を置いている。なお、博物館協議会は博物館法第20条第2項において「博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関」と定められている。

(1) 委員名簿（◎会長）

ア 任期 令和7年8月1日から令和9年7月31日まで（令和7年8月1日時点）

選出区分	氏 名	職業・役職
市民	藤田 友子	市民公募委員
市民	海瀬 安紀子	市民公募委員
家庭教育関係者	木村 貴子	元市 PTA 理事・監査、前静岡市立高松中学校 PTA 会長
社会教育関係者	池田 水穂子	里山くらし LABO 代表、はびまましずおか
学校教育関係者	野田 修	静岡市立清水第二中学校長
学校教育関係者	鈴木 健介	静岡市立南部小学校長
学識経験者	田宮 緑	静岡大学学術院 教育学領域 発達教育学専攻 幼児教育専修 教授
◎学識経験者	堀切 正人	常葉大学教育学部教授
学識経験者	丸山 真史	東海大学 人文学部 教授
学識経験者	村野 正景	静岡大学情報社会学科 准教授

※ 敬省略

(2) 令和7年度協議会開催実績

ア 第1回

日時：令和7年7月23日（水）

10：00～12：00

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール

出席者：9人

傍聴者：0人

内容：（1）令和6年度の事業報告

（2）令和7年度の事業予定

（3）日韓交流事業について

（4）議題「令和6年度までの協議題と現状」

イ 第2回

日時：令和8年2月18日（水）

10：00～12：00

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール

出席者：7人

傍聴者：0人

内容：（1）令和7年度の事業報告

（2）令和8年度の事業予定

（3）議題「登呂博物館リニューアルに向けて」

10 ボランティア活動

博物館ボランティア

平成7年の活動開始以来、団体見学者の引率、体験展示室での説明補助、イベント補助などの活動を行っている。原則、毎月一回、博物館職員を交えた「ボランティア連絡会議」を開催している。

(1) 活動内容 () 内はボランティアの参加者数

月	会合	研修等			講座・イベント支援
		展示解説	米づくり	その他	
4月	会議 (17)	春季企画展「しずおかタイムトラベル 2025」			
5月	会議 (8)		粳まき (3)		とろムラ体験 Week ! (12)
6月	会議 (12)		田植え (2)		田植え体験(10)
7月	会議 (16)	夏季企画展「いせきのZOO」(15)			
8月	—				
9月	会議 (13)				みごほうきづくり (4)
10月	—				赤米収穫体験 (10) 遺跡探検ツアー (9)
11月	会議 (15)	秋季企画展「大昔へのまなざし」(14)	稲刈り (7) 脱穀・もみすり (0)		
12月	会議 (15)				しめ縄づくり (12)
1月	—				
2月	会議 (18)	冬季企画展「駿河国分寺展」(15)			土器づくり体験 (16)
3月	会議 (21)				

(2) 登録者数：39人（令和7年4月1日時点。前年同時期 45人）

(3) 平均活動人数：1日平均 5.3人（前年度比 0.1人減）

(4) 新規ボランティア募集状況

ア 応募人数：11 人

イ 募集期間：令和7年7月1日～12月25日

ウ 事前研修：下記研修日程表のとおり（応募者との日程調整の上、個別に対応）

	内容	時間
第1回	・ガイダンス（ボランティア体制、館概要、接遇） ・1階体験展示室の説明	1時間程度
第2回	・2階常設展示室の説明 ・登呂遺跡解説	1時間30分程度
可能者のみ	・ボランティア連絡会議へ出席（顔合わせ）	30分程度

(5) 登呂博物館ボランティア主催事業「みごほうきづくり」

概要：収穫した稲藁を再利用し、「みごほうき」をつくる。

併せて、登呂遺跡での稲作や登呂ムラで行われた「再利用」についても紹介する。

日時：令和7年9月13日（土）10：00～11：30

会場：登呂博物館1階 登呂交流ホール

料金：100円

人数：8人



11 利用案内

(1) 開館時間

9:00～16:30（博物館）、遺跡は24時間オープン

(2) 休館日

月曜日（休日の場合は開館）、休日の翌日、12月26日～1月3日 ※臨時開館・閉館する場合あり

(3) 観覧料（通常期：令和7年4月1日時点） ※博物館1階は無料でご利用いただけます。

区分	一回	団体※ ¹	回数券※ ²	共通券※ ³	団体共通券※ ^{1,3}
一般	300円	220円	1,400円	580円	460円
高校生・大学生	200円	150円	930円	360円	280円
小学生・中学生	50円	40円	230円	120円	90円

※1「団体」は有料観覧者30名以上の団体

※2「回数券」は5枚綴り

※3「共通券」は登呂博物館に隣接する静岡市立芹沢銈介美術館との共通観覧券

ただし、以下の者は観覧料を無料とします。

ア 静岡市内に居住する70歳以上の者

イ 静岡市内に居住し、又は通学する小学校の児童及び中学校の生徒（これらに準ずる者）

ウ 未就学児

また、学校団体の見学、身体障害者手帳等の交付を受けた方とその同伴者1名など、観覧料の免除となる場合があります。詳細は登呂博物館にご確認ください。

(4) アクセス

ア バス JR静岡駅南口から10分 しずてつジャストライン石田街道線「登呂遺跡」行き終点下車

イ 自動車 (ア) 東名高速道路 静岡ICから10分

(イ) 東名高速道路 日本平久能山スマートICから10分

ウ 駐車場 博物館南側（東名高速道路側道北側）に有料駐車場あり（普通車一回400円）

(5) 音声ガイド

常設展示室及び復元建物に音声ガイドを整備しています。専用のスマートフォンで利用できます。

ア システム 「pitatto」（ノムラテクノ株式会社）

イ 言語 日本語、英語、中国語（文字は簡体字）、韓国語

ウ 設置箇所 15（博物館内11、復元建物4）

エ 利用方法 専用のスマートフォンを博物館内で貸し出ししています。

オ 導入日 平成30年4月24日

登呂博物館と学校教育 ～令和6年度から令和7年度の取組報告～

静岡市立登呂博物館
松原 草太

はじめに

登呂遺跡は昭和18（1943）年の発見以来、歴史の教科書で取り扱われてきたことにより弥生時代を示す象徴的なイメージとして一般に認識されてきた。その効果は大きく、現在でも来館者の中には「修学旅行以来また訪れたかった」、「教科書に載っていて知っていたため、一度来たかった」などの声も見受けられるほどである。しかし、近年では登呂遺跡を紹介する教科書は減少傾向にあり、一般における認識の低迷が懸念される。登呂博物館では、少なくとも市内の小学生にその価値や重要さを知ってもらいたいと考え、学校教育で取り扱うにはどのような取組ができるのか検討している。ここではその取組と状況を報告する。

出前講座は依頼があった際に、登呂遺跡に関する講座や、弓矢体験やミニチュア土器づくりなどの弥生体験を学校に出向いて行うものである。令和5年度までの学校での講座実施数は各年0～3回程度であった。



館内見学の様子

1. 登呂博物館と学校対応の現状

当館と学校との関わりは、学校が社会科見学等で来館するものと学芸員が学校で授業を行う（出前講座）ものの大きく二つに分けられる。

社会科見学は令和3年のコロナ禍以降、体験指導員や博物館ボランティアが対応し、15分程度の概要説明（ガイダンス）後、博物館1階弥生体験展示室、博物館2階常設・企画展示室、遺跡の3か所を各20分程度ずつ見学する方法で実施している。特に遺跡見学の中では屋外体験指導員（ムラビト）の補助による火起こし体験も実施しており、学校側にはひとつの魅力として捉えられている。復元した遺跡と重要文化財指定を受けた出土品を間近に観察できる見学は県内外から希望され、特に小学6年のうち弥生時代を扱う5・6月の時期は予約が埋まる日も多い。市内の小学校の来館は約80校のうち50校前後で、来館割合はおよそ60%から65%で推移している。

2. 登呂博物館が考える課題と問題意識

令和6年4月に、令和6年度から4年の間市内小学校で採用される教科書に「登呂遺跡」の記載がないと知った。来館されれば学習してもらうことはもちろん可能であるが、教科書に記載がなければ授業で扱わない可能性がある。授業のなかで最も登呂遺跡を取り扱いやすいと思われる小学生において、少なくとも市内の学校で登呂遺跡に触れてもらうためにはどのようなことをしたらよいか、来館されない30%から35%の来館を促すにはどうしたらよいか、という課題を認識した。同時に当館は学校との交流が希薄で、学校側の状況を把握したり、ニーズを認知したりする仕組みや機能がないことがこのような問題が生じた原因であるととも改善すべき課題として認識した。

令和6年度は、まず学校や教員とかかわりを持

つことで状況を把握することを目的とし、意見交換会や出前講座を企画した。

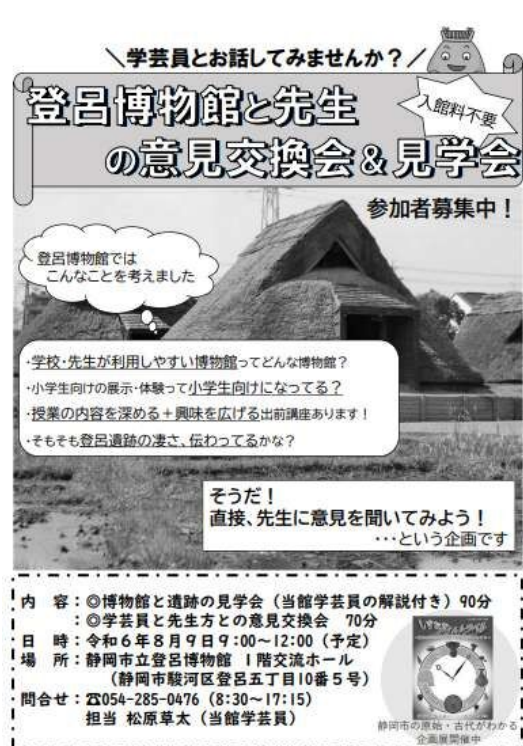
3. 令和6年度の取組

3-1. 意見交換会

当館では、学校見学の受け入れ・出前講座・体験用具の貸出を実施し、学校からの要望に柔軟な対応ができるように整えてきた。しかし、学校側がどのように登呂博物館を捉えているのかは把握できていなかった。そこで、令和6年8月に市内の教員を対象とした見学会と意見交換会を企画した。募集のために各学校へチラシを配布したが周知が行き届かなかったため、自主学習会である静岡市社会科学学習会の協力を得て実施した。

「登呂博物館と先生の意見交換会&見学会」と題したこの企画は8月9日の午前に実施し、社会科学学習会のフィールドワークとして18名が参加した。意見交換会では学校見学等の当館の取組を紹介したうえで、いくつかの質問やテーマについて意見を交わした。

以下、質問事項と回答の概要をまとめる。



意見交換会のチラシ

Q①社会科見学会に登呂博物館へ来たことはあるか、あるならばいつ決めるのか。ない場合はどのような理由か。

(ある)

・例年登呂博物館へ行く学校だったため、例年に倣い見学した。

・最終的に決めたのは4月だったが、担当の学年が決まった段階で相談はしていた。

(なし)

・費用の確保ができなかった。

・授業日数が減少し、社会科見学の時間を確保するのが難しい。

・バス代が高騰していることや、バスの予約ができなかったことから取りやめた。

・(駿河区の学校) 歩くには遠くバスを借りるには近すぎるため見学に至らなかった。生徒は自主的に見学しており登呂遺跡は知っていたため授業でも話題にした。

Q②当館が取り組む出前講座は学校の要望(授業進捗)に合わせて対応できる。これは学校にとって受け入れやすいものか。あるいは社会科見学会に訪れられない理由を解消するものか。

・登呂遺跡や弥生時代はテーマが絞られた内容になっている。社会科の授業で弥生時代だけに注目することは難しいため、総合学習であれば活用できそう。

・とても魅力的に感じる。体験道具などと合わせて登呂博物館らしさが加わるとよいと思う。

Q③総合学習に登呂遺跡や登呂博物館をとり入れてもらえる方法はあるか。

・静岡市では「しずおか学」を総合的な学習の時間に実施している。設定された6つのテーマ(お茶、しずまえ、オクシズ、海洋文化、防災、歴史文化)から選択して実施することになっている。登呂遺跡は「歴史文化」のテーマが最も当てはまると思う。

・「登呂遺跡」や「弥生時代」ということではなく、「地域の歴史や史跡」の部分にスポットを当てて活用を促してみてはどうか。“その場所がかつてどのような場所だったか”を調べる方法として考古学や発掘調査があり、その方法を学ぶために登呂博物館を利用するというかたちはどうか。登

呂遺跡だけではない「考古学」・「発掘調査」という見せ方にすれば活用しやすい。

・学芸員や発掘調査員という仕事は魅力的に感じる。キャリア教育の教材として学び、博物館へつなげることも可能ではないか。

3-2. 出前講座

令和6年度には市内小学校3校で出前講座を実施した。講座内容は、依頼校と事前に相談決定した。各学校の様子を把握するとともに、登呂博物館が要望に対してどのように対応できるか確認ができた。そのうち初めての試みとなった2例を報告する。

①出前講座（事前学習）＋社会科見学〈静岡市立南部小学校 6年生〉

南部小学校は登呂遺跡が学区内にあり、徒歩で来館できる距離にある。地域にある登呂遺跡の価値を学べるようにと見学前の講座と博物館見学の依頼を受けた。出前講座では、登呂遺跡と登呂博物館の特徴や見学時のみるべきポイントの説明と、当館が所蔵する表採資料のうち縄文土器と弥生土器の破片を触ってもらうメニューを提案し実施した。後者は2種類の土器片を数個ずつ配り、観察しながらグループ分けをするというもので、土器片の観察だけでなく資料の取り扱いも学ぶことができた。博物館見学では事前に講座をしていたためガイダンスが不要なこと、徒歩での来館のため時間を長く確保できることから、台付甕形土器のレプリカを使用した土器炊飯の実演と試食も実施した。

担当教員からは事前学習と社会科見学の2回実施したことで、博物館で何を見るべきか視点が定



土器炊飯の様子

まるとの感想をいただいた。

②社会科見学＋出前講座（事後学習）〈静岡市立清水高部東小学校 6年生〉

高部東小学校は来館時に前講座を紹介したところ、事後学習として依頼があった。出前講座の実施時にはすでに弥生時代を終え古墳時代を学習しているとのことだったため、登呂遺跡の見学を振り返る内容と、縄文土器・弥生土器・須恵器に触る体験を行った。実物（土器片）を使用しながら縄文時代から古墳時代までの歴史を、登呂遺跡（弥生時代）を中心として比較ができたことと好評を得た。



土器片に触る様子

4. 令和6年度の振り返りと令和7年度の目標

令和6年度の実践から次の3点が明らかになった。

- ・登呂遺跡・博物館の利用は小学校が圧倒的に多く、展示や取組内容も小学校に馴染むこと
- ・登呂博物館の取組に対する評価の前に、博物館の取組自体が周知できていないこと
- ・社会科以外での遺跡・博物館の活用例がないが、潜在的な可能性があること

こうした実状から、登呂遺跡を対象とした学習の機会を創出するためには出前講座の充実を図ることが各学校の実状に馴染みやすいと考えられた。そのため令和7年度には、講座を依頼してもらいやすくするための参考となる事例を積み重ねることと、移り変わる状況を把握するための意見交換会を実施することとした。

5. 令和7年度の取組

5-1. 「教員のための博物館の日 in 登呂博物館」

「教員のための博物館の日」は国立科学博物館が平成20（2008）年から実施している事業である。先生方に学習資源を知ってもらうという点や実施内容は各館で決められるなど、当館での開催が可能であり、周知に課題を抱える当館にとっては他館とともに広報協力をしてもらえる利点があったため実施に至った。

開催は令和7年8月8日（金）と8月9日（土）で、当館では初めての取組みであることから参加者の予想が立てられなかったため、平日・休日の両日実施とした。内容は半日ごとにテーマを設定し、①登呂のムラビト体験編・②授業に役立つ編・③博物館をよく知る編とした。①では当館で通常実施している火起こしや土器炊飯の弥生体験、②では教科書で扱われる田下駄を水田で履く弥生体験、③では博物館や学芸員に主眼を置いたバックヤード見学や学芸員の仕事紹介を行った。また、それぞれの回で意見交換会や座談会を行い、当館の学校へ向けた取組に対する意見を交わした。2日間での参加者はのべ24名で、うち半数は市外や県外であり、所属も小学校から高校まで多岐に渡った。対象者を学校教育関係者とし

ていたため、社会科担当以外にも理科や数学、栄養士などの参加があった。参加理由は、当館に初来館や「教員のための博物館の日」事業への興味、子連れ参加可能な研修であること、体験ができることなどであった。

意見交換会では市外教員からは体験道具の貸出やオンラインで使用できる教材のリクエストがあった。市内教員からは実際に出前講座を活用したい申し出があり、令和7年度中に2校で実施に至った。当館に対する興味は弥生・歴史は前提としつつ、戦時中・戦後の調査の歴史や博物館・学芸員、稲作などが話題にあがった。

5-2. 出前講座

令和7年度には市内公立小学校7校で出前講座を実施した。うち、南部小学校・清水高部東小学校・大里西小学校の3校は昨年度に続いて依頼があり、蒲原東小学校・清水小学校の2校は担当教員が「教員のための博物館の日」に参加したことをきっかけとして出前講座の実施に至った。講座を実施した7校のうち初めての取組やテーマ、体験を行った6校の事例を報告する。また、今年度から静岡市歴史博物館とともに、静岡市立高松中学校の1・2年生の総合的な学習の時間にかかわりを持ち当館での携わり方を協議している。高松中学校は登呂遺跡を学校区に含んでおり、南部小学校の卒業生の多くが進学する学校である。高松中学校と連携をすることができれば、小学校から中学校へと繋がりのある学習が可能であると考えている。

①社会科+総合的な学習〈静岡市立南部小学校 6年生〉

昨年度に続いての実施であることから、発展させた取組として出前講座+社会科見学の後に「しずおか学」（総合的な学習）の時間にも登呂遺跡・博物館を扱った。総合的な学習の時間では、

（1）社会科見学時に関わった登呂博物館で働く職員にインタビューを行って学芸員や体験指導員の仕事を知り、（2）聞き取ったこと・調べたこと・学んだことをリーフレットにまとめ、（3）博物館で学芸員や体験指導員になりきって来館者に説明を行った。聞き取る内容やなりきる職種や



「教員のための博物館の日 in 登呂博物館」

チラシ



インタビューの様子

調べるテーマは社会科見学で学んだ内容や感じた疑問からは生徒自身が決めた。

説明は「登呂博物館ジャック～登呂遺跡の魅力伝えよう～」と題し、説明内容や配置は各児童が決めて自作のリーフレットを使用しながら行った。実施日は出前講座5月22日、見学5月28日、インタビュー7月2日、発表7月16日である。また、作成したリーフレットの一部は10月に当館1階で展示し、地域住民や来館者にも活動と成果を紹介した。担当教員と連携し、講座や見学という受動的になりがちな学びから、調べる・発表するという能動的な学びにできたことは成果である。特に、社会科見学での来館時に感じた疑問や発見を放置せず、テーマとして探求をしたことは、社会科と地域学習の繋がりだけでなく、深い学びに至ることができたと考える。



学芸員になりきり常設展示室を案内

②出前講座で3つの弥生体験〈静岡市立賤機南小学校 6年生〉

賤機南小学校は来館の予約があったが、既に予約枠が埋まっていたためその代替として出前講座を提案した。博物館で実施できる体験を学校でも

提供できるように、概説＋弓矢体験・土器片に触る体験・田下駄体験を実施した。田下駄体験を学校で実施するのは初めてであったが、高跳び用のマットを使用して当館弥生体験展示室の田下駄体験を再現した。出張できる講座メニューを新たに設けられた成果である。講座後に担当教員から、体験の感謝とともに「来年は登呂博物館へ行きたい」と述べていただけたことで、出前講座が来館を促す効果になったと感じた。



高跳び用マットを使用した田下駄体験

③社会科歴史のスタート講座〈静岡市立清水高部東小学校 6年生〉

高部東小学校では今年度は来館に至らなかったため、出前講座の依頼があった。特徴的な点は、社会科の歴史のうち第1時間目として歴史の面白さを伝えてほしいというリクエストだった。縄文時代と弥生時代を比較する教科書にあわせ、概説と縄文土器片・弥生土器片に触る体験を行った。また、歴史が教科書の中の物語や暗記しなくてはならないものではなく、身近にあるものだと示す例として高部東小学校が埋蔵文化財包蔵地内に含まれる石川Ⅱ遺跡の事例を合わせて紹介した。歴史系の学芸員が授業を行うという点に魅力を持っていたため、実施にいたった講座であった。

④図画工作〈静岡市立蒲原東小学校 1年生〉

担当教諭が「教員のための博物館の日 in 登呂博物館」に参加していたことから実施に至った。図画工作での講座となったのは、「教員のための博物館の日」のうち③でバックヤード見学をした際に梱包材として紹介した「薄葉紙」がきっかけだった。「薄葉紙」は1年生の図画工作のうち「わ

くわくペーパー」という造形遊びの授業の題材として紹介されている。

蒲原東小では「くわくペーパー」の時間に薄葉紙の使用例の紹介を行い、次の授業でテラコッタ粘土を使用したミニチュア土器づくりと簡単な学芸員という仕事の紹介を行った。「教員の日」の実施により薄葉紙・博物館・学芸員といった学習資源となる題材を発見してもらえた例である。



薄葉紙を扱う小学生

⑤稲作をテーマにした講座＋体験〈静岡市立清水小学校〉

担当教諭が「教員のための博物館の日 in 登呂博物館」に参加していたことから実施に至った。小学校5年生で稲作を学習するため、その発展として大昔の稲作について話したり体験したりする講座を依頼された。講座では稲作の1年を辿りながら、田起こしの話題で木製鍬、収穫の話題なら石包丁と復元品に触りながら学習した。また、授業中は貫頭衣を着用し、体育用のマットを使用した田下駄体験なども行った。

⑥地域の文化財をテーマにした講座〈静岡市立大里西小学校 4年生〉

昨年度は6年生で、今年度は4年生での実施であった。テーマを地域にある文化財とし、登呂遺跡が文化財として残されている理由や残そうとした人たちの熱意や努力、文化財的な価値を話してほしいという依頼だった。登呂遺跡の概要から遺跡保存や整備の流れ、文化財を守る仕組みについて話した。令和6年度の意見交換会でも話題になっていた、登呂遺跡を「地域の歴史や史跡」として着目した例となった。

6. 令和7年度の振り返りと令和8年度の目標

令和6年度に課題としていた「周知」という点では、出前講座や意見交換会・「教員のための博物館の日」の実施が効果を発揮しつつある。出前講座を実施した数校で1回きりにならず今年度も実施できたことは方向性が間違っていないことを示しているだろう。令和8年度以降も意見交換を含む「教員のための博物館の日」は継続すべきと考える。

一方で、出前講座が前年に比べ2倍程になり、初めてのテーマや初実施の体験などがあったことから業務量は増加している。このまま件数が増加していくと対応できない事態も発生しかねない。令和8年度以降は、学芸員以外の体験指導員でも対応できるようなシステムづくりをしていくことや、意見交換会では興味を持たれるも実施件数の少ない体験道具の貸出など、出前講座で実施すべき内容を幅広くして、対応できるように整えたい。

おわりに

本稿では令和6・7年度における登呂博物館の取組を紹介した。この2年間で学校側の視点を知り、とり入れながら当館ならではの取組を実施できたと感じている。ただし、実施している内容は決して新しいものではなく、これまでも当館で行ってきたものばかりである。これまで蓄積されてきた取組や弥生体験メニューが当館の魅力的な財産であるということを示すとともに、意見を交わす場の設置の重要性が強調されたと考えられる。

今後も博物館の都合に偏らず、学校側の実状と乖離しないように常に意見交換と内容の見直しを継続していくべきと考える。今後も、さらなる取組が蓄積され有意義な博学連携になっていくことを期待する。

謝辞

学校連携に向けたの取り組みを実施するにあたり、静岡市社会科学学習会の皆様、市内教員の皆様、静岡市教育委員会関係者の皆様にご指導・ご協力いただきました。末筆ではありますが、感謝申し上げます。

丸山真史（東海大学 人文学部）

山田望海（東海大学大学院 海洋学研究科）

1. 登呂遺跡出土の魚骨

登呂遺跡では、1948 年～1950 年の第 2 次～第 4 次調査、1999 年～2003 年の発掘調査で出土した動物遺存体が報告されている（直良 1978、新美 2006）。

動物遺存体のなかでも海産物に注目すると、第 2 次～第 4 次調査では貝類のハマグリ、ボウシュウボラ、カガミガイ、ヒメアサリ、スガイ、アカニシ、ウミニナ、カニモリガイ、魚類のサメ類・イワシ科・ハモ・マアナゴ・ブリ・マダイ・イトヨリダイが同定されている。また、1999 年からの調査では、貝類はハマグリ、魚類はサメ類・イワシ科・フグ科、哺乳類のイルカやクジラが同定されている。これらのように登呂遺跡における複数種の魚貝類、海生哺乳類の出土は、多様な海産資源の消費を示している。

今回、同定対象とした魚骨は、出土地点の詳細は不明であるが、『登呂遺跡出土資料目録 写真編』p. 89 に掲載の目録番号 409 の出土品である（図 1）。常設展示室で「魚骨」として展示されており、種類が明らかとなっていなかったが、種類の判別が可能と判断して、同定を試みた。

博物館に現生骨格標本を持ち込み、魚種および部位の同定作業を行った。参照した現生骨格標本は、サバ科マグロ族のヒラソウダ、マルソウダ、スマ、カツオ、キハダ、クロマグロの 6 種である。

同定作業は山田と丸山が主となって行い、宮島明里（東海大学人文学部）がこれを補助した。また、本稿は丸山が執筆し、山田がこれを補助した。

2. 同定の結果

本資料は、カツオの椎骨（尾椎）と同定した。尾椎のなかでも前方のものであり、現生骨格標本との比較から体長 50cm 前後と推定される。以下、マグロ族の 6 種の骨格標本と比較した部位と種の同定根拠を記載する。

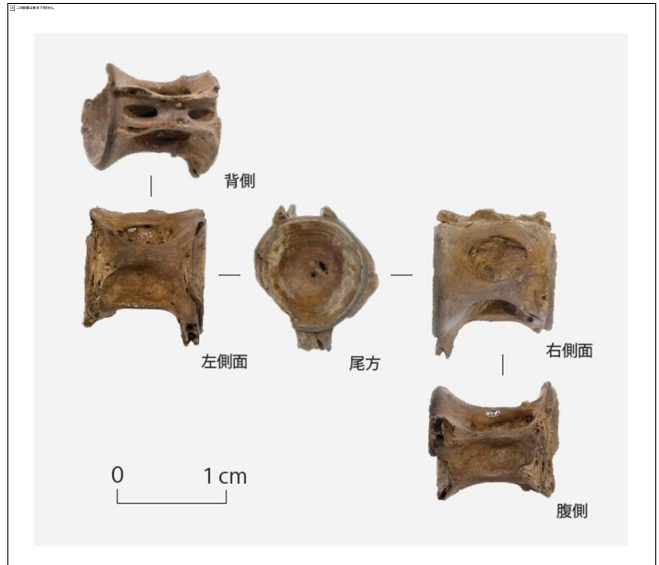


図 1 同定対象とした魚骨

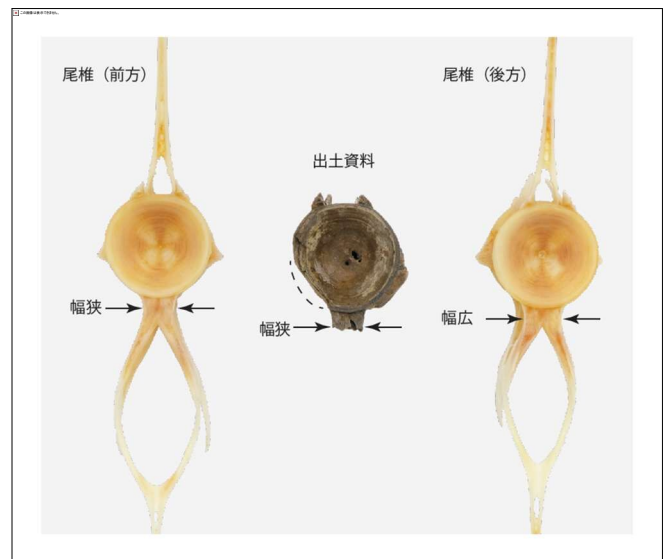


図 2 カツオ尾椎との比較

部位の同定：本資料は、神経棘および血管棘の大部分が破損しており、椎体の一部も破損している。同定の手がかりとなるのは椎体と僅かに残っている血管棘の付け根部分である。

本資料は、椎体の腹側が細めの 1 本線となっている。マグロ族の腹椎の腹側は 2 本線となっており、中央と 2 本の線の外側は孔となって形態が異なり、本資料は尾椎と同定できる。

左右の両側面は太い 1 本線となっており、その上下は凹み、尾鰭椎前椎体とは形態が異なる。また、

尾方から見た椎体下部の血管棘の付け根部分の幅が狭い。この部分は尾椎の後方になるにしたがって、幅が広くなるため、本資料は尾椎のなかでも前方の特徴と合致する（図2）。

魚種の同定：ヒラソウダとマルソウダの尾椎では、椎体の側面の中央がくびれる鼓形を呈するため、本資料とは異なる。スマとカツオの尾椎は、椎体の腹側が1本線であるのに対して、キハダとクロマグロの尾椎は、椎体腹側が2本線で中央は溝状となり、スマ、カツオのいずれかである。

スマとカツオの椎体側面の1本線は中央が細く、前後の両縁に向かって太くなることは共通するが、カツオは直線的であり、本資料の特徴と合致する。一方、スマは中央付近がカツオより強くくびれた鼓形になっており、本資料とは異なる。

なお、カツオと種名が似ているハガツオもサバ科に属するが、椎体の腹側は2本線で中央が溝状となっており、本資料とは明確に異なる。

3. 登呂遺跡におけるカツオ出土の意義

冒頭に述べたように、これまで登呂遺跡で出土している海産物には複数種の魚貝類が含まれており、今回の同定作業により、あらたにカツオを追加することができた。このことは、登呂遺跡でカツオを消費していたことを示すに留まらず、駿河湾におけるカツオ漁に関する貴重な資料として位置付けられる。また、静岡県焼津港や御前崎港は全国的に有名なカツオの水揚げ地であり、カツオの産地である駿河湾沿岸の漁業史や食生活史においても重要と言える。

カツオの骨の出土は、縄文時代に遡る福島県いわき市の大畑貝塚が有名である。その時期は縄文時代中期であり、大量に出土していることから、太平洋沿岸における活発なカツオ漁が明らかになされている（福島県・いわき市教育委員会 1975）。

静岡県内では、縄文時代後期から晩期の浜松市の蛸塚貝塚（浜松市市民部文化財課 2024）、焼津市の古墳時代中期から後期の宮之腰遺跡（焼津市教育委員会 1964）、静岡市の中世末の駿府城跡（静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009）においてカ

ツオの骨が出土しているが、遺跡数は少ない。このことは静岡県でカツオの漁獲、消費が低調であったというよりも、遺跡における骨の保存状態、篩を用いた水洗選別の未実施などのサンプリングバイアスが考えられる。

弥生時代の登呂遺跡において、カツオ漁が行われていたかどうかは、今後、漁具やカツオ漁との関連について検討が必要である。また、近世には沼津の内浦湾沖で建切網漁が行われ、外洋性回遊魚であるカツオ、マグロ、ソウダガツオが漁獲されている（高橋 2018、沼津市歴史民俗資料館編 1976）。今後、駿河湾の地形や海流、潮流、魚類生態などの多角的視点からの検討により、弥生時代の登呂遺跡における漁撈の具体像が明らかになるだろう。

謝辞

本資料の調査において、当館の岡村渉館長、学芸課の渡邊智大氏、松原草太氏のお手を煩わせた。末筆ではあるが、ここに記して感謝の意を表する。

引用文献

- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009『駿府城内遺跡』
- 静岡市立登呂博物館 1989『登呂遺跡出土資料目録』
- 高橋美貴 2018「近世における海洋回遊資源の資源変動と地域の自然資源利用」『日本史研究』第 672 号、日本史研究会 pp. 30-60
- 奈良国立文化財研究所編 1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告—長屋王邸・藤原麻呂邸の調査— 本文編』奈良県教育委員会
- 直良信夫 1978「動物遺存体」『登呂』本編 日本考古学協会編 pp. 314-343
- 新美倫子 2006「登呂遺跡出土の動物遺体」『特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書（自然科学分析・総括編）』静岡市教育委員会 pp. 83-85
- 沼津市歴史民俗資料館編 1976『沼津市文化財調査報告書』第 9 集、沼津市教育委員会
- 浜松市市民部文化財課 2024『史跡蛸塚遺跡』
- 福島県・いわき市教育委員会 1975『大畑貝塚調査報告書』
- 焼津市教育委員会 1964『宮之腰遺跡』

静岡市立登呂博物館 館報 第 32 号 令和 7 年度

発 行 日：令和 8 年 6 月 30 日

編集発行：静岡市立登呂博物館

〒422-8033 静岡市駿河区登呂五丁目10番5号

TEL 054-285-0476 FAX 054-287-1466

torohaku@city.shizuoka.lg.jp <https://www.shizuoka-toromuseum.jp>